

**【東京都杉並区】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	東京都杉並区
担当課名	教育委員会事務局学校支援課
電話番号	03-3312-2111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	572,468人 (令和5年4月)	部活動数	運動部166、文化部114 (令和4年度)
公立中学校数	23校 (令和5年4月)	市区町村の協議会・検討会議等の 設置状況	設置済
公立中学校生徒数	6710人 (令和5年4月)	市区町村の推進計画・ガイドライン等の 策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

(1) 部活動・部員数の減少

運動部活動の部員数上位（令和4年度）の種目の推移（右図）のとおり、個人戦のあるバドミントン部や卓球部の部員数が増加傾向にあるが、集団競技である野球部やサッカー部の部員数が減少傾向にある。また、野球部やサッカー部においては、既に一部の部活動において、単独校では、大会に出場することができないなど、活発な活動を実施することが困難な状況にある。

【令和4年度】

軟式野球部：①部活動がない中学校12校

②部活動はあるが部員数が競技実施可能人数（9人）に満たない中学校3校

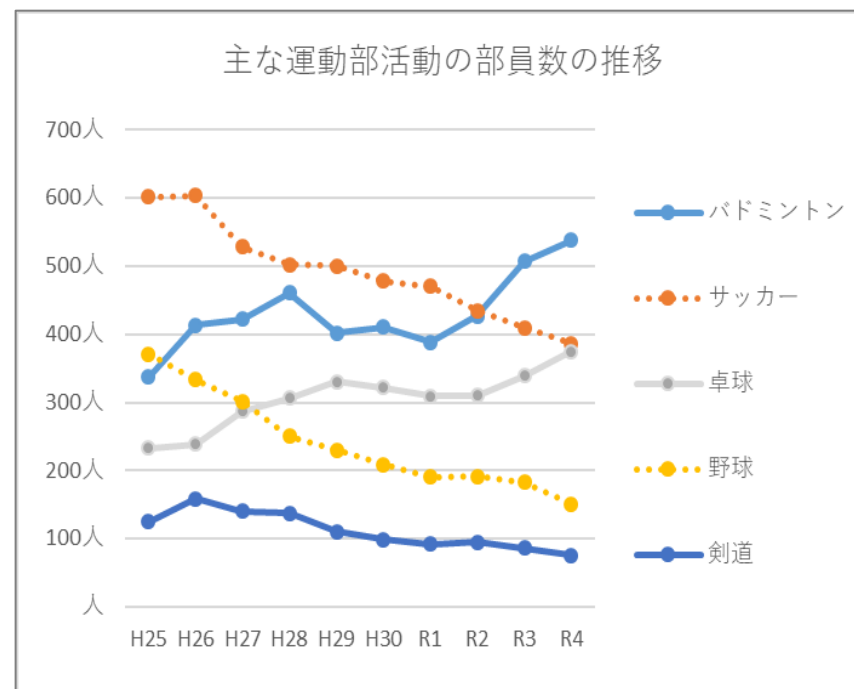
(2) 勤務時間外の部活動指導による教員の長時間勤務

区立中学校の教員においても、依然として長時間勤務の実態にある。

(3) 生徒が希望する部活動種目の多様化

一部の生徒から、1種目ではなく複数の種目のスポーツに親しみたいとの声がある。

図 部員数上位10種目（令和4年度）の内10年前の部員数と比べ増減率が30%を超える種目の推移

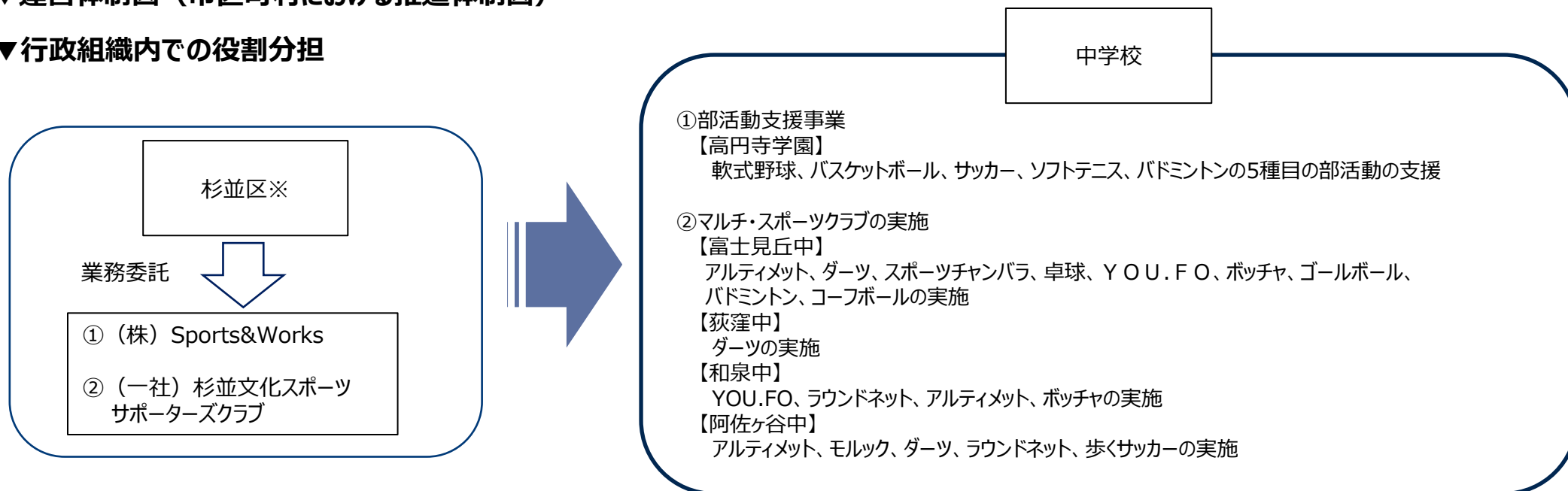


2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

▼行政組織内での役割分担



※学校教育部門だけではなく、区長部局のスポーツ振興部門を構成員とした部活動の検討委員会において、本取組を検討

年間の事業スケジュール

(高円寺学園)

令和5年4月～ 部活動の支援事業を実施

(富士見丘中)

令和5年4月～ マルチ・スポーツクラブの実施

(阿佐ヶ谷中)

令和5年10月～ マルチ・スポーツクラブの実施

(荻窪中、和泉中)

令和5年11月～ マルチ・スポーツクラブの実施



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

(部活動支援事業・高円寺学園)

- ・民間事業者部に部活動支援業務を委託することにより、専門的な指導者が、全ての運動部活動の指導等を行い、教員が技術指導や大会引率等に携わらなくてもよい環境を構築した。
- ・指導者・部活動支援員の他、関係者との調整を行う統括責任者を配置し、区教育委員会、学校、民間事業者との連絡調整体制を確保した。また、練習指導、大会引率の実施後、民間事業者が作成する「部活動実施報告書」を区教育委員会に報告することにより、日々の活動状況を確認する仕組みを構築した。

(マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)

- ・一般社団法人に委託することにより実施主体を整備した。
- ・指導者の他、関係者との調整を行うクラブコーディネーターを配置し、区教育委員会、学校、民間事業者との連絡調整体制を確保した。また、練習指導の実施後、一般社団法人が作成する「指導報告書」を区教育委員会に報告することにより、日々の活動状況を確認する仕組みを構築した。

取組の成果

下記のとおり、多くの時間、民間事業者または一般社団法人による活動を実施したが、統括責任者やクラブコーディネーターによる学校等関係者との円滑な調整により、滞りなく事業を実施することができた。

(部活動支援事業・高円寺学園)

軟式野球396時間/年、バスケットボール528時間/年、サッカー264時間/年、ソフトテニス528時間/年、バドミントン572時間/年 (上限時間)

(マルチ・スポーツクラブの実施 (最も実施回数が多い富士見丘中の場合))

原則 毎週1日(土曜日)の実施 ※1回当たりの活動時間は3時間

今後の課題と対応方針

持続可能な活動の場を提供するためには、指導者の他、関係者との調整を行う人材の配置が必要不可欠であることから、引き続き、統括責任者やクラブコーディネーターを配置し、各活動を実施する。

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
指導者の質を確保するため、部活動の指導に係る知識及び質の向上を図るための研修を実施した。

取組の 成果

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
体罰やハラスメントなど不適切な事案が生じることなく、スポーツ活動の指導等を実施することができた。

今後の 課題と 対応方針

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
引き続き研修を実施するなど、指導者の質の確保に努め、部活動のガイドラインを遵守した活動を実施する。

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
令和5年度に新たに設置した「杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会において、杉並区体育協会、区立小・中学校のPTA協議会が推薦する方等から、各取組に関する意見を聴取した。

取組の 成果

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
懇談会において徴取した意見等を踏まえ、高円寺学園の部活動支援事業について、複数校の生徒が1つの拠点に集い活動を実施する拠点校方式による合同部活動として実施展開できるように準備を進める。

今後の 課題と 対応方針

また、富士見丘中他3校で実施しているマルチ・スポーツクラブについては、競技・大会志向ではなくレクリエーション志向でよりゆるやかな活動を求める生徒の活動の場として、一定規模の活動を継続する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

(部活動支援事業・高円寺学園)

部員の少ない軟式野球部について、休日の練習の内、月に1～3回程度、他中学校との合同部活動を実施した。

(マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)

富士見丘中のみで実施していたマルチ・スポーツクラブを、令和5年度の下半期より、阿佐ヶ谷中、和泉中、荻窪中でも試行的に実施した。

取組の 成果

(部活動支援事業・高円寺学園)

他中学校と合同練習をすることにより一定規模の人数を確保し、活発な練習を実施することができた。

また、他中学校との合同チームとして、大会にも出場することができた。

(参考) 令和5年度の高円寺学園の軟式野球部の部員数 8名

(マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)

阿佐ヶ谷中は10月から、和泉中、荻窪中は11月から活動を開始し、生徒に新たなスポーツ活動の場を提供することができた。

(実施種目は、スライド「2. 実証内容と成果」の「運営体制図」のとおり)

今後の 課題と 対応方針

(部活動支援事業・高円寺学園)

一部の活動を合同部活動として実施した成果を踏まえ、今後、常時、複数校の生徒が一校で活動する「拠点校方式による合同部活動」として実施展開できるように準備を進める。

(マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)

競技・大会志向ではなくレクリエーション志向でよりゆるやかな活動を求める生徒の活動の場として、一定規模の活動を継続する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
参加者の費用負担がない仕組みで、事業を実施した。

今後の課題と対応方針

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
部活動が、経済的な事由も含め民間のクラブ活動へ参加することが困難な生徒の活動の場としても重要な役割を担ってきたことを踏まえ、会費等の参加者負担については、慎重に検討する。
なお、参加者へ負担を求める場合は、生徒間に経済状況を事由とした体験格差が生じないよう、必要な家庭への支援方法についても合わせて検討する。

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)
区内中学校を実施場所とした。

取組の成果

(部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校)

今後の課題と対応方針

校庭、体育館などハード面、ボールなどの使用備品も充実しており、滞りなく事業を実施することができたことから、引き続き学校施設の利用を基本として、本事業を実施展開する。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

（部活動支援事業・高円寺学園）の取組

未来へ つなぐ 部活動改革 ニュースレター 第3号

令和6年1月 東京都

2 杉並区

教員が技術指導・大会引率に携わらない新たな部活動

小中一貫教育校高円寺学園におけるモデル部活動

軟式野球

バスケットボール

バドミントン

ソフトテニス

サッカー

株式会社 Sports&Works / 京浜企業株式会社

運動5部活動

- ・ 平日も休日も一体的に、民間事業者の専門的な指導者が指導等を行い、教員が技術指導や大会引率等に携わらなくてもよい環境を構築
- ・ 少人数の部活動は、他校との合同部活動とし、活発で魅力ある活動を実施

※ 本モデル事業のほか、新たなスポーツ活動の場として、複数の種目を体験することができるマルチ・スポーツクラブを実施

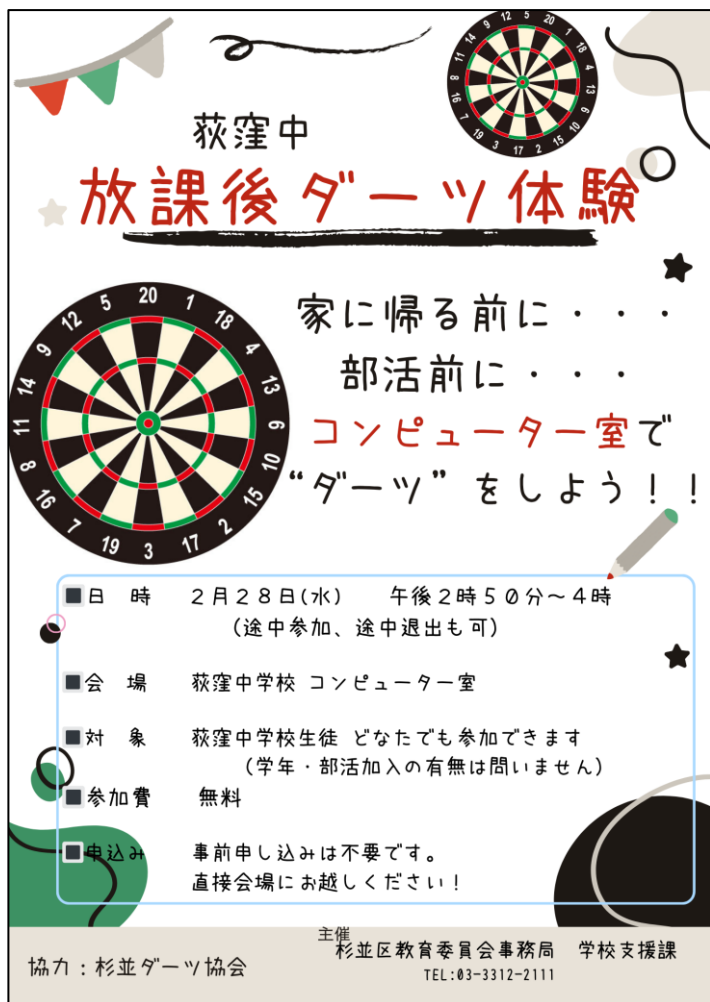


2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

（マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中他3校）の取組

杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会 資料抜粋



萩窪中
★放課後ダーツ体験★

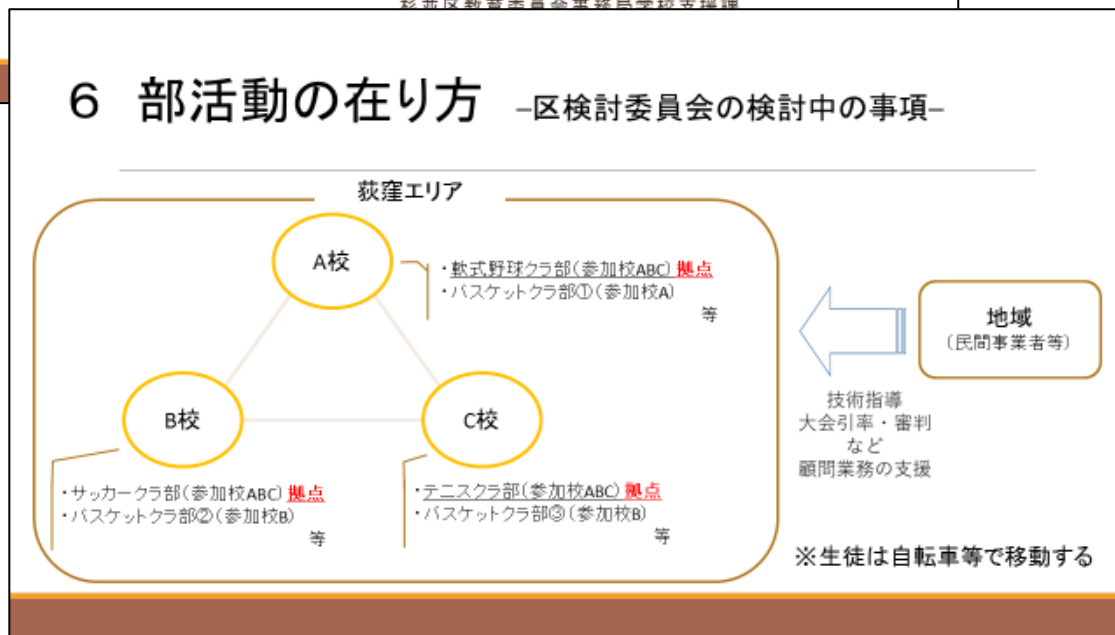
家に帰る前に・・・
部活前に・・・
コンピューター室で
“ダーツ”をしよう！！

- 日時 2月28日(水) 午後2時50分～4時
(途中参加、途中退出も可)
- 会場 萩窪中学校 コンピューター室
- 対象 萩窪中学校生徒 どなたでも参加できます
(学年・部活加入の有無は問いません)
- 参加費 無料
- 申込み 事前申し込みは不要です。
直接会場にお越しください！

主催 杉並区教育委員会事務局 学校支援課
協力：杉並ダーツ協会 TEL:03-3312-2111

杉並区の中学校部活動の在り方について

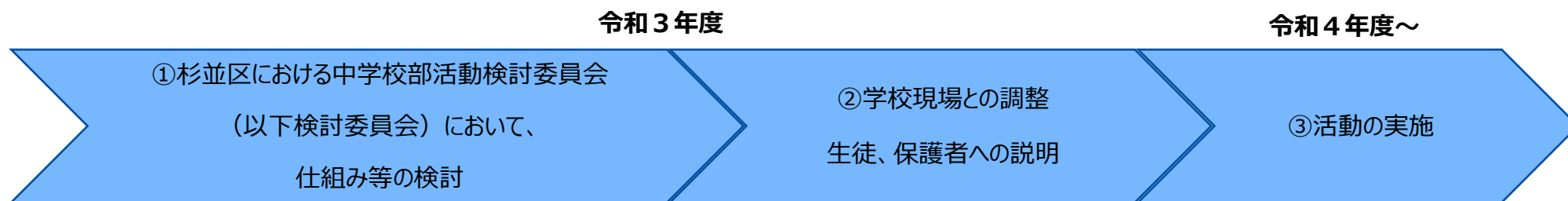
令和5年9月28日
杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会
杉並区教育委員会事務局学校支援課



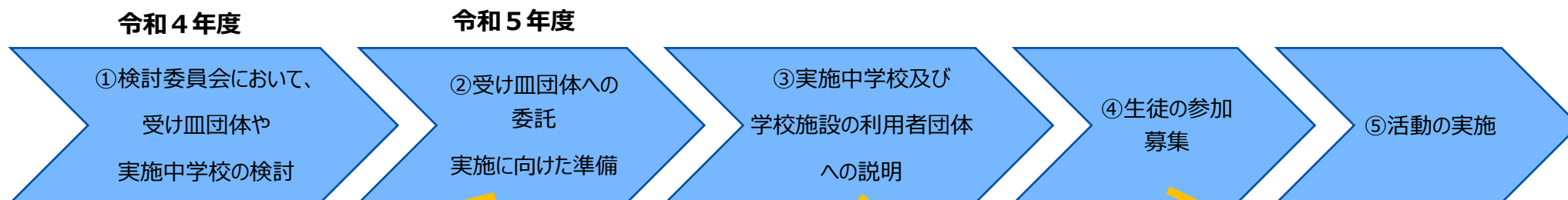
2. 実証内容と成果

活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

- (部活動支援事業・高円寺学園) (マルチ・スポーツクラブの実施・富士見丘中)



- (マルチ・スポーツクラブの実施・阿佐ヶ谷中、荻窪中、和泉中)



② 4月～9月

● 経緯・実施内容

- ・区教育委員会は、富士見丘中でマルチ・スポーツクラブを実施した実績のある団体へ、拡充3校での実施を委託
- ・受託団体は、指導者を確保
- ・区教育委員会は、拡充3校で安全に活動を実施するための安全管理マニュアルを策定

③ 8～10月

● 経緯・実施内容

- ・区教育委員会は、実施中学校の校長等へ事業概要の説明
- ・区教育委員会は、学校施設を利用している団体へ事業概要を説明
- 課題等
- ・学校施設の利用スケジュールに影響があることから、年度当初などに速やかに取り組む必要があった。

④ 9月～10月

● 経緯・実施内容

- ・区教育委員会は、学校の協力を得て、生徒に募集ちらしを配布
- 課題等
- ・募集ちらしの配布など事業の周知には中学校の協力は必要不可欠であり、今後も区教育委員会と学校間で密な連携を図る必要がある。

3. 今後の方向性

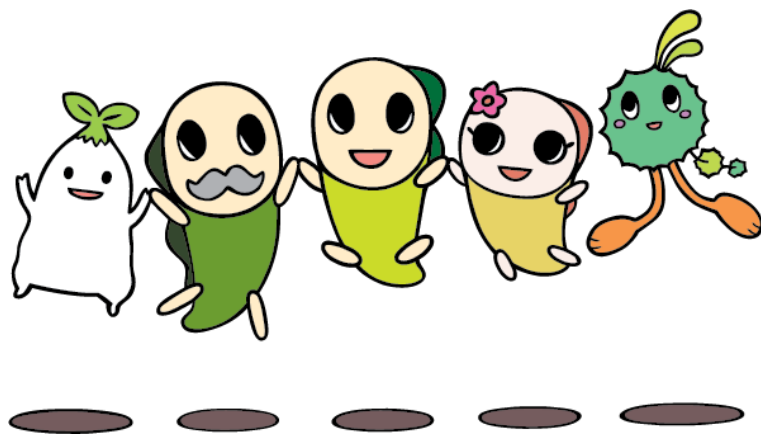
地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

令和5年度

① 学校教育部門だけではなく、スポーツ振興部門等を構成員とした「杉並区における中学校部活動の在り方検討委員会」を設置

② 検討委員会において、高円寺学園の部活動支援事業など、今後の部活動の地域連携・地域移行に関して検討

③ 「杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会」において、杉並区体育協会、区立小・中学校のPTAの協議会等から意見聴取



令和6年度

④ 部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画を策定
(予定)

**【東京都板橋区】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	東京都板橋区
担当課名	教育委員会事務局教育総務課
電話番号	03-3579-2261

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	571,048人	部活動数	300部活
公立中学校数	22校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	9,343人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中 (令和6年3月策定予定)

令和5年5月1日時点

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【部活動の現状】

- 板橋区立中学校は上記「基本情報」の規模であり、区立中学校の部活動に計7,754名の生徒が入部している。（兼部の場合、重複して数えている。）
- 本区において、少子化の影響はあまり顕在化していないが、学校間の部活数の差が最大で11部もある。（最大18部、最小7部）

【区立中学校の教員、生徒、保護者を対象に部活動に関するアンケート調査】

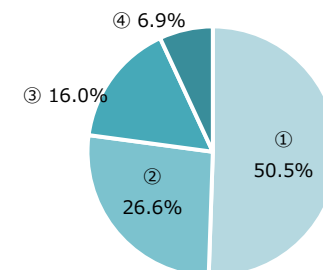
- 約8割の教員が部活動の顧問として負担を感じていると回答
- 入学した中学校にやりたい種目・分野の部活動がなかったと約4割の生徒が回答
- 保護者の費用負担について、約6割がメリットがあれば受け入れても良いと回答

【「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」の策定】

- 2030年時点で実現したい将来像を設定するため、令和5年度に策定。
- 「行政による地域クラブの推進」「地域連携の活用」「地域展開の環境整備」の3つの重点戦略及び「共通項目」を設定。
- 地域移行推進ビジョン2030と合わせて改革推進期間である令和7年度までの「板橋区立中学校部活動地域移行実施計画2025」を策定。
- 令和5年度に実践研究モデル事業として、区教育委員会が運営団体となる「いたばし地域クラブ」を立ち上げる。女子サッカークラブ、eスポーツクラブ、科学技術クラブの3クラブを実施。（実証事業として実施しているのは女子サッカークラブ、eスポーツクラブのみ）

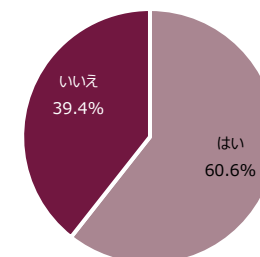
部活動の顧問として負担を感じているか

- ① 感じる
- ② どちらかというを感じる
- ③ どちらかというと感じない
- ④ 感じない



板橋区立中学校部活動アンケート調査より

入学した中学校の部活動にその種目（やりたい種目）があったか

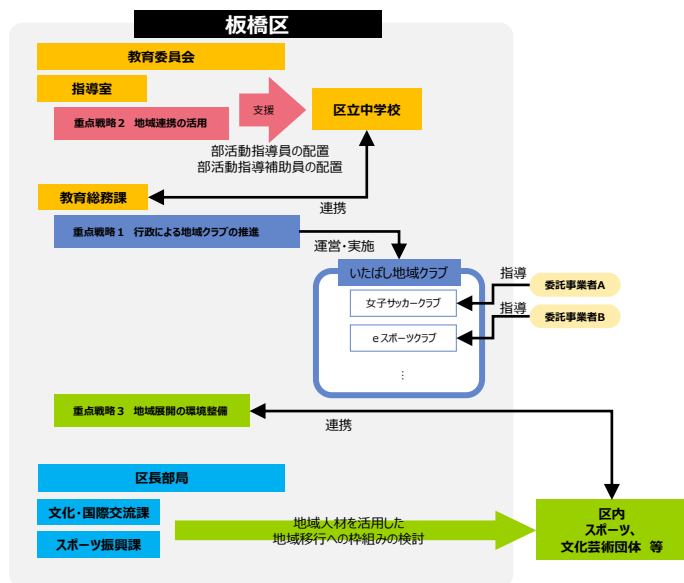


板橋区立中学校部活動アンケート調査より

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育総務課、指導室）

教育総務課…いたばし地域クラブの運営及びデータ・知見及び課題の整理
指導室…部活動指導員及び部活動指導補助員の配置

● 首長部局（区民文化部 文化・国際交流課、スポーツ振興課）

区内スポーツ、文化芸術団体をはじめとした地域人材を活用した地域移行への枠組みの検討

年間の事業スケジュール

- 令和5年3月 いたばし地域クラブの募集開始
- 令和5年4月 いたばし地域クラブの保護者説明会
- 令和5年5月 いたばし地域クラブの活動開始
- 令和5年8月 クラブ内イベント（クラブ内大会）の実施 ※ eスポーツクラブ
- 令和5年10月 対外試合イベント（2023年度 中学校女子サッカー部フェスティバル）への参加 ※女子サッカークラブ
- 令和6年1月 クラブ内イベント（クラブ内大会）の実施 ※ eスポーツクラブ
- 令和6年2月 次年度へ向けた小学6年生対象の体験会の実施
対外試合イベント（スマイルプロジェクト）への参加 ※女子サッカークラブ
- 令和6年3月 令和5年度の活動終了

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	2校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	女子サッカー、eスポーツ
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1部活		

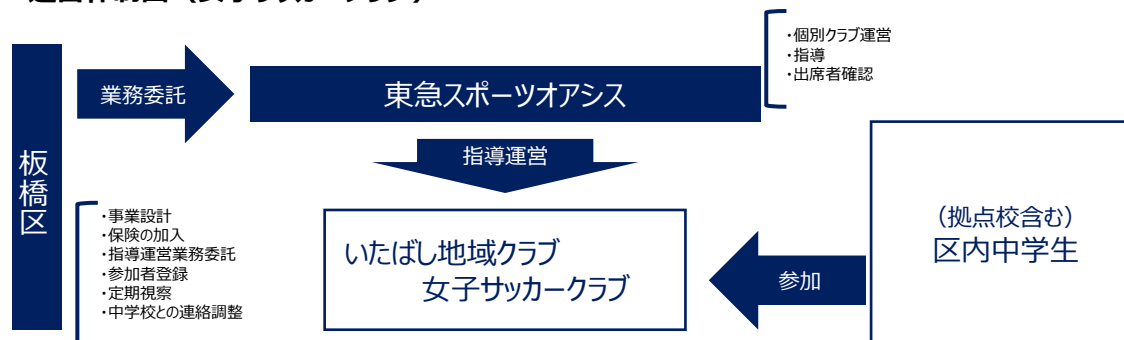
主な取組例

▼活動概要

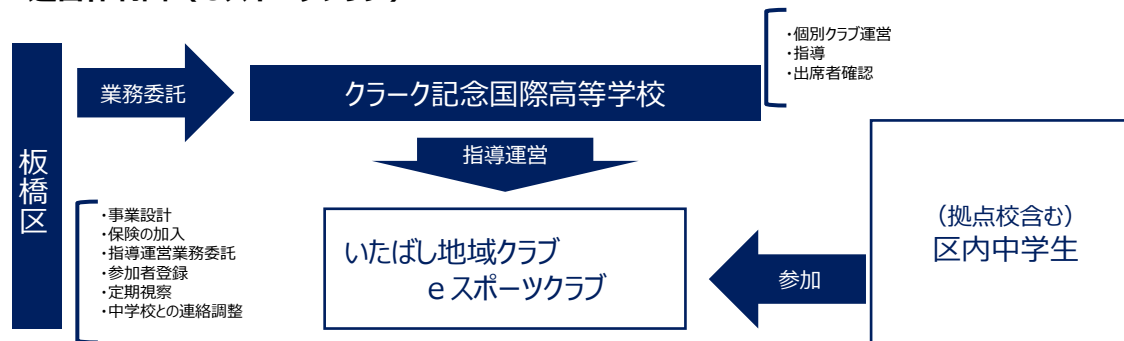
拠点校名	上板橋第二中学校、板橋第五中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、eスポーツ
運営主体名	東急スポーツオアシス、クラーク記念国際高等学校
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	女子サッカー：月4回程度 eスポーツ：月4回程度
指導者の主な属性	民間スポーツクラブ 高等学校
活動場所	板橋区立上板橋第二中学校旧校舎 クラーク記念国際高等学校CLARK NEXT Tokyo
主な移動手段	徒歩、自転車、公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	女子サッカー：24,000円 eスポーツ：24,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：約797円/年 指導者：委託事業者による

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

運営体制図（女子サッカークラブ）



運営体制図（eスポーツクラブ）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会事務局に新たに担当係を設置し、地域移行実践研究モデル事業の検証結果をもとに、本格導入に向けて体制構築を行う。

取組の 成果

令和5年度より教育委員会事務局教育総務課に部活動改革担当係長を設置し、地域移行実践研究モデル事業の実施によって、地域クラブ活動の運営にあたる課題等を把握・検討した。

また、「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」を令和5年度に策定することで、いたばし地域クラブを令和6年度より本格実施とすることができた。

特に 工夫した 事項

指導体制の確認及び検証のため委託事業ではあるが、区職員が定期的（月1～2回程度）に視察を行うことで、参加者や指導者とコミュニケーションをとることで、課題把握等を行った。

今後の 課題と 対応方針

令和6年度に、いたばし地域クラブの個別クラブを1クラブ新設するため、引き続き課題の把握に努める。

さらには、令和7年度に向けて新たに実施するクラブの種目・分野を選定するにあたり、関係者との合意形成に努める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

「いたばし地域クラブ指導ガイドライン（仮称）」を作成し、委託や直営に関わらず、指導の質を一定に保ち、体罰やハラスメントを防止する。

取組の成果

「いたばし地域クラブ指導ガイドライン（仮称）」の策定については、実証事業を始めとした他業務と並行しての策定が困難であることから作成まで至らなかった。
東京都の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」等を参考にしつつ、実証事業を含むいたばし地域クラブの各クラブへ視察し、度々委託事業者と指導方法等について意見交換を交わした。

特に工夫した事項

- 区職員が定期的に視察を行った。
- 女子サッカークラブは当初参加者数が少ない時期もあったことから、区職員が活動に参加し、地域クラブ活動を体験することで、関係者とコミュニケーションを取ることができた。そのため、活動の様子を把握することや意見交換なども行いやすい環境を構築することができた。

今後の課題と対応方針

学校部活動における不適切な指導についての情報収集や関係部署等と連携し、対応するとともに、事例の研究を進める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

「板橋区立中学校部活動地域移行検討会議」を通じて、地域のスポーツ団体等との連携を強化する。

取組の成果

「板橋区立中学校部活動地域移行検討会議」を通じて、体育協会及び文化団体連合会の委員と意見交換をし、連携を強化することができ、令和6年3月に「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」を公表する。
また、「板橋区立中学校部活動地域移行検討会議」を通じてではないが、令和5年7、8月と12月に「板橋区立中学校部活動地域移行協議会」を実施、区内のスポーツ、文化芸術団体と意見交換の場を設けた。さらには、区内にある総合型地域スポーツクラブと定期的に協議の場を設け、今後の板橋区の地域移行の方向性について意見交換を実施した。令和6年度以降、総合型地域スポーツクラブ主催の地域クラブ活動を立ち上げる予定で調整しており、区内のスポーツ、文化芸術団体と連携を強化できた。

特に工夫した事項

「板橋区立中学校部活動地域移行協議会」の開催
令和5年7・8月 47名 12月 28名
※オンライン参加を含む。

「小学生保護者を対象とした説明会」の開催
令和6年1月 90名 ※オンラインで実施

令和5年7月・8月

板橋区立中学校
「部活動地域移行協議会」



板橋区教育委員会



今後の課題と対応方針

「板橋区立中学校部活動地域移行協議会」をステップアップする形で「板橋区立中学校部活動地域移行シンポジウム」を開催する。専門家とのパネルディスカッションを含む意見交換の場を設けることで、部活動地域移行の機運をさらに醸成する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

技術の習得や向上のみを目的とせず、参加者同士の交流を促進し、主体性を育むことを目的に定期的なミーティングを行うほか、レクリエーション的な活動を取り入れたクラブ活動を運営する。

取組の成果

女子サッカークラブ、eスポーツクラブともに、従前からこの種目に取組んでいた生徒が少ないため、技術の習得・向上をめざしつつも、参加者同士の交流や主体的なクラブ運営を目的としたクラブ運営を実施した。令和6年2月に、いたばし地域クラブについて、ローカル番組の取材を受けた際には、女子サッカークラブ、eスポーツクラブともに生徒インタビューにおいて、主体的に自分の言葉でインタビューに応えるといった成長がみられた。女子サッカークラブでは、学年に関係なくリーダーシップを発揮する生徒や、学校の垣根を越えて仲良くなったり、eスポーツクラブでも、途中入会の生徒へ自主的に話しかけ、生徒同士の交流が活発に行われるなど、地域クラブ活動ならではの良い面が見られた。

特に工夫した事項

クラブの種目の技術向上のみを目的としないこと、学校の垣根を越えた地域クラブ活動であることから、活動を開始した当初は、両クラブとも指導者や生徒同士がコミュニケーションをとれるメニューを多く取り入れてもらい、円滑なクラブ運営ができた。

今後の課題と対応方針

初年度であることから、関係性づくりに重点をおいた活動となった。今後、新しい生徒が入会した際の関係性づくり及び主体的なクラブ運営のためにどのような工夫が必要か、引き続き指導者との意見交換を通じ、方向性等を検討していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

「いたばし地域クラブ」に参加する困窮世帯に対して、必要な経費の支援を検討する。

取組の成果

クラブ活動費は生活保護の教育扶助対象となるため、事前に福祉事務所と連携し、生活保護世帯の参加者へ円滑に扶助費が支給されるよう調整した。なお、いたばし地域クラブ会員に生活保護世帯がいるかどうかについては、教育委員会事務局では把握していない。

特に工夫した事項

上記のとおり調整することで、あらかじめ生活保護世帯の方は教育扶助の対象になる旨を周知することができた。

費用・定員



費用：月額2,000円（6月から）
※生活保護世帯の方は教育扶助の対象となります。福祉事務所にお問合せください。

（いたばし地域クラブ参加者募集のご案内より）

今後の課題と対応方針

生活保護世帯以外の困窮世帯について、どのような経費支援が適切かを検討する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

現行部活動の合同部活動化を推進し、学校施設利用の精査を行う。

取組の 成果

合同部活動化の推進については、中学校長と意見交換を行うことや学校部活動の視察を定期的を実施し、学校施設利用の課題を確認した。

特に 工夫した 事項

今後の 課題と 対応方針

複数校で部活動を行った方が活動の幅が広がる場合についても合同部活動化を推進していきたいが、中学校体育連盟の大会の在り方にも影響があるため、慎重に推進していく必要がある。
また、地域クラブ活動の実施に向けて、学校施設のセキュリティの分離等を検討していく。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



板橋区教育委員会
いたばし地域クラブ
参加者募集のご案内

募集クラブ：女子サッカー、eスポーツ、科学技術
募集期間：令和5年3月31日（金）～令和5年4月20日（木）

目次
いたばし地域クラブ P2
女子サッカークラブの募集案内 P3
eスポーツクラブの募集案内 P5
科学技術クラブの募集案内 P7
参加申し込み等について P9
よくある質問 Q&A P14
いたばし地域クラブ会員規約 P16

問合せ
板橋区教育委員会事務局総務課 03-3579-2003
板橋区教育委員会事務局総務課 03-3579-2201

女子サッカークラブ 募集案内

このクラブでは、「参加者が主体的、自発的に運営する安全な活動」をコンセプトに、一人ひとりが主役となることを理念として活動します。サッカー技術の向上に向けた練習だけでなく、三カ、水中トレーニング、ストレッチなどのトレーニング体験、練習試合、女子サッカー大会への参加などを予定しています。

活動内容	対象：女子中学生（全学年対象） 活動内容：サッカーの練習、練習試合や大会参加、トレーニング体験イベントなど 指導者：株式会社東急スポーツアッスに委託します。
活動日・場所	活動日：令和5年5月14日（日）から令和6年3月31日（日）までの日曜日、9時30分～11時30分、計45日程度（予定） ※この日、祝日等にご参加イベントを行う予定です。開催は平日から1日になることがあります。 活動場所：区立上板橋第二中学校体育館校庭（板橋区小泉町1-2-1） ※平日は練習場を使用する場合があります。大会試合会場の場合もあります。トレーニング体験イベント時は貸借施設を利用します。（株式会社東急スポーツアッスの施設利用予定）
費用・定員	費用：月額2,000円（6月分） ※生活保護世帯の方は教育扶助の対象となります。開催期間にお問合せください。 定員：33名（学年ごとに定員は1.1名となります）

いたばし地域クラブのeGoコンセプト

中学校部活動 × SDGs 持続可能な新しい活動へ
Sustainable New Activity
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 持続可能な開発目標	すべての人に健康と福祉を 一生を通じて続けられるから大切
4 質の高い教育をみんなに	進学した中学校に左右されない選択
5 ジェンダー平等を実現しよう	私もやりたいの練習
8 豊かで持続可能な成長	週末に休める先生というごこと
10 人や国の不平等をなくそう	私にもプレーするチャンス
16 平和と公正をすべての人に	STOP 悪徳 指導ではなくサポートを

eスポーツクラブ 募集案内

eスポーツは、今全世界で急速に広まっている新しいスポーツです。個人や仲間とゲームを楽しむという段階から、ゲームで練習と競い合うというレベルへ進めると、新しいゲームとの付き合い方が生まれます。このクラブ活動で本格的なeスポーツの世界に慣れてみませんか。

活動内容	活動内容：eスポーツ 練習内容は「リーグオブレジェンド」で、10年以上世界のeスポーツで活躍しているゲームです。ジャンルは「対戦型（モンスターハンター）」と「対戦型MOBA（マルチオンラインバトルアリーナ）」です。板橋区eスポーツ大会で優勝したり、全国大会に出場する、指導者も全国大会で活躍できる指導者が増えます。5月まで練習を取り入れ、チームプレイが決め手になるゲームです。 指導者：学校法人板橋学園クラブ総合高等学校に委託します。
活動日・場所	活動日：令和5年5月17日（水）から令和6年3月31日（日）までの水曜日、16時30分～18時、計45日程度（予定） ※大会参加の場合は、平日から1日になることがあります。 活動場所：クラブが指定する板橋区ALIX NEXT Tokyo（板橋区板橋4-11-4）大会は別会場の場合もあります。
費用・定員	費用：月額2,000円（6月分） ※生活保護世帯の方は教育扶助の対象となります。開催期間にお問合せください。 定員：45名（学年ごとに定員は約1.1名となります） ※会場・設備等の関係で当初より定員を変更しております。

【いたばし地域クラブ 参加者募集のご案内】

小学6年生対象 いたばし地域クラブ1日体験会 を開催します！

令和5年度から部活動の地域移行のモデル事業として、いたばし地域クラブを立ち上げました。令和6年度に中学校に入学する、区内在住の小学6年生を対象に1日体験会を開催します。
「女子サッカークラブ」「eスポーツクラブ」「科学技術クラブ」が実際にどんなことをやっているのか、ぜひ体験しに来てください！



女子サッカークラブ



eスポーツクラブ



科学技術クラブ （ロボット数学）

【小学6年生対象 いたばし地域クラブ体験会】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【女子サッカークラブ（練習）】



【女子サッカークラブ（対外試合イベント）】



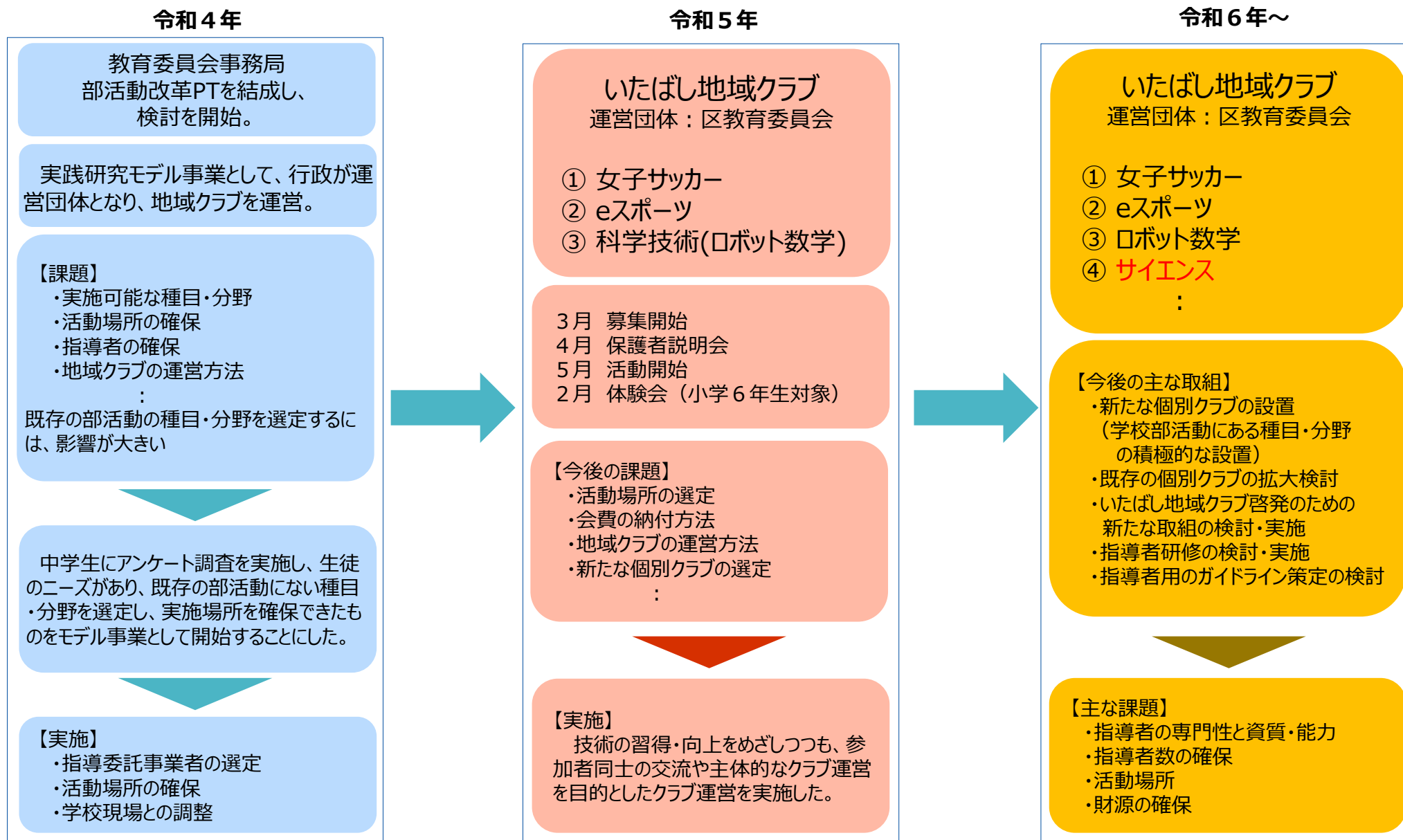
【eスポーツクラブ】



【eスポーツクラブ】

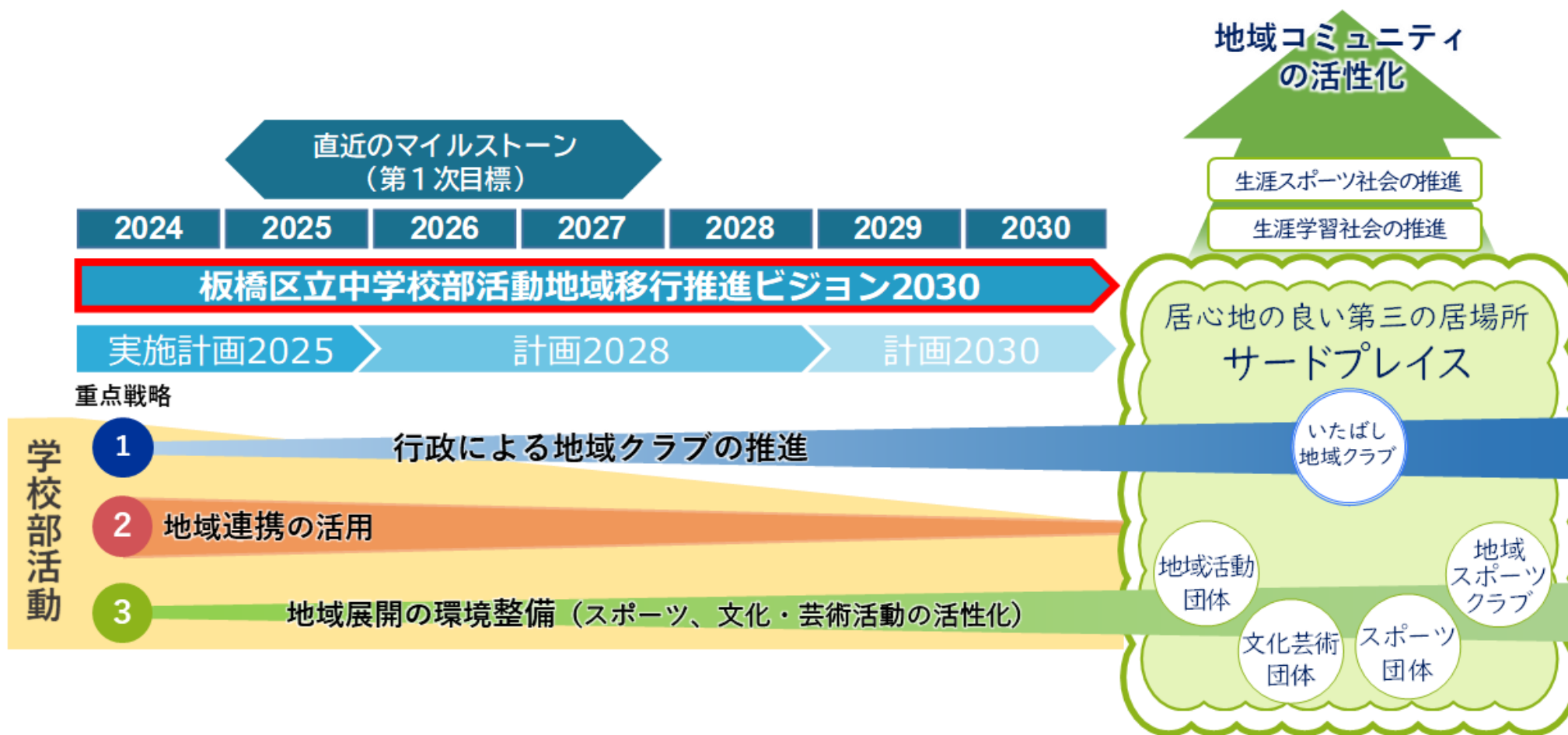
2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



**【東京都日野市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	東京都日野市
担当課名	日野市教育委員会 教育部 教育指導課
電話番号	042-514-8728

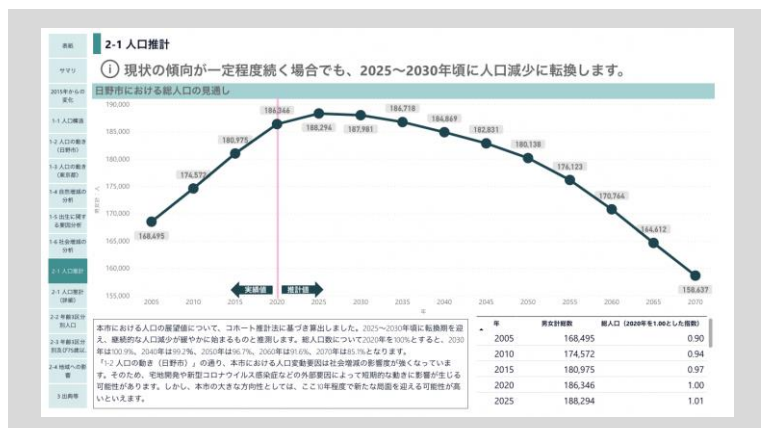
1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	187,402人	部活動数	79部活
公立中学校数	8校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和4年度設置済 「日野市地域文化スポーツ連携協議会」
公立中学校生徒数	4,313人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済



地域連携・地域移行における市区町村の現状1



出典：令和4年度日野市人口ビジョン

[現状]

- 本市では、令和3・4年度日野市部活動改革プロジェクト事業（令和3・4年度スポーツ庁地域運動部活動推進事業採択事業）の取組みにおいて、学校部活動部活動（運動部）の移行のモデル事業を実施
- 令和3年度では本市教育委員会が主体・令和4年度は地域クラブ主体の運営モデルによる運営を行い新たな地域クラブの在り方の構築を目指している
- 令和4年度には、本市における持続可能な地域スポーツの目指す姿や運営基準・人材確保・財源確保の検討及び決定する「日野市地域連携スポーツ協議会」を立ち上げ、協議を行っている。

中学校	第1学年	第2学年	第3学年	小計	合計					
日野第一	245	7	243	7	235	6	723	20	723	20
特別支援教室	(1)	(4)	(15)	(20)						
日野第二	163	5	190	5	173	5	526	15	559	20
特別支援(情緒)	15	9	9	33	5					
特別支援教室	(4)	(6)	(2)	(12)						
七生	140	4	138	4	125	4	403	12	430	16
特別支援(知的)	15	5	7	27	4					
特別支援教室	(3)	(3)	(9)	(15)						
日野第三	112	4	85	3	89	3	286	10	309	13
特別支援(情緒)	7	8	8	23	3					
特別支援教室	(1)	(5)	(4)	(10)						
日野第四	221	6	202	6	213	6	636	18	636	18
特別支援教室	(2)	(2)	(2)	(6)						
三沢	224	6	207	6	230	6	661	18	661	18
特別支援教室	(1)	(6)	(7)	(14)						
大坂上	183	5	206	6	199	5	588	16	627	21
特別支援(知的)	14	13	12	39	5					
特別支援教室	(12)	(7)	(10)	(29)						
平山	123	4	111	3	122	4	356	11	368	13
特別支援(知的)	6	5	1	12	2					
特別支援教室	(6)	(4)	(7)	(17)						
通常学級計	1,411	41	1,382	40	1,386	39	4,179	120		
特別支援学級(情緒)計	57	40	37	134	19					
特別支援教室計	(30)	(37)	(56)	(123)						
合	計	1,468	1,422	1,423	4,313	139	4,313	139		

出典：令和5年 小・中学校在籍人数

[課題]

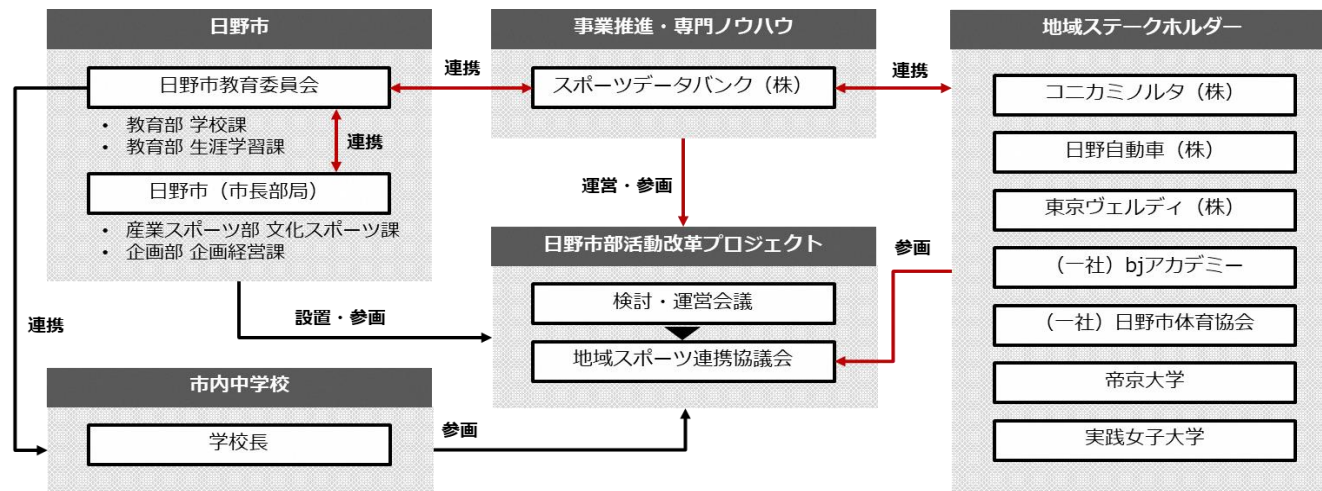
持続可能な地域スポーツを、学校部活動の延長線にない新たな環境「日野型地域スポーツ活動（ひのスポ!）」として構築を目指しているが、昨年度までの実証で明らかにした移行に係る本市の課題は以下①～⑤である

- ① 地域全域の生徒の活動機会確保するための主体となる運営団体・指導者の確保
- ② 従来の部活動にはない種目など地域のニーズに対応するスポーツ体験機会の確保
- ③ 主体となる運営団体の運営基準づくり
- ④ 受益者負担の在り方と持続可能な運営を行うための寄付・協賛等を含む財源確保
- ⑤ 学校体育施設の活用方法の見直し

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

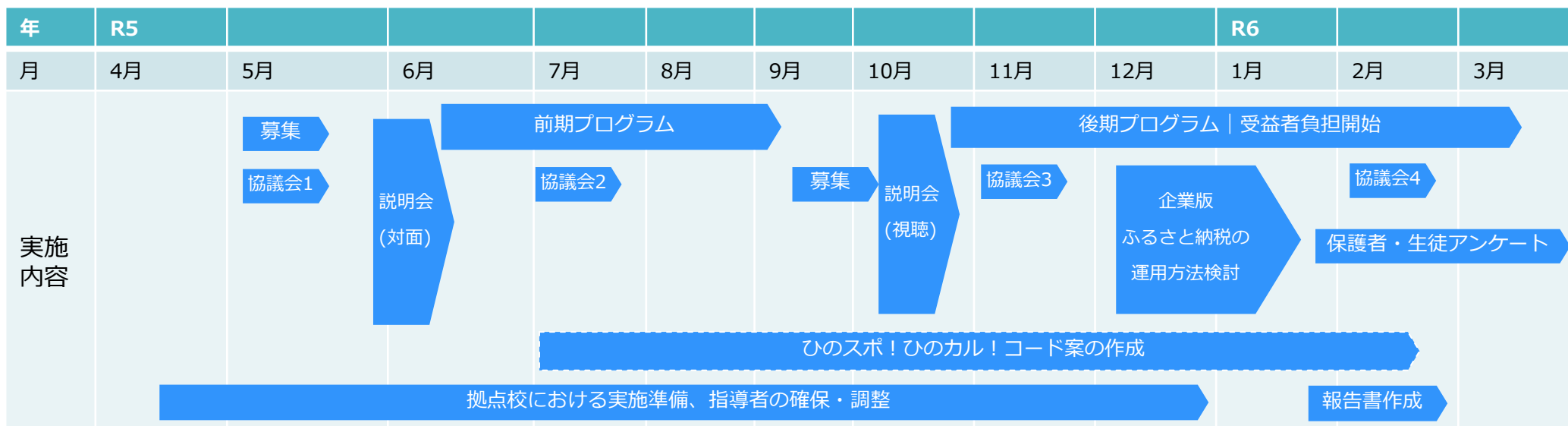
▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**
(教育部教育指導課)
 - 本事業の主管課・方針の決定、連携団体との調整、財源確保
- **生涯学習課**
(教育部生涯学習課)
 - 学校体育施設の一般開放との調整
- **首長部局**
(産業スポーツ部文化スポーツ課、企画部企画経営課)
 - 教育委員会との連携・連携企業、連携団体との調整、財源確保

年間の事業スケジュール



2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数・地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	地域クラブ活動に取り組んだ種目
8校（市内全校） 日野市型地域クラブ活動「ひのスポ！」	男子バスケットボール、女子バレーボール、バドミントン、ソフトテニス



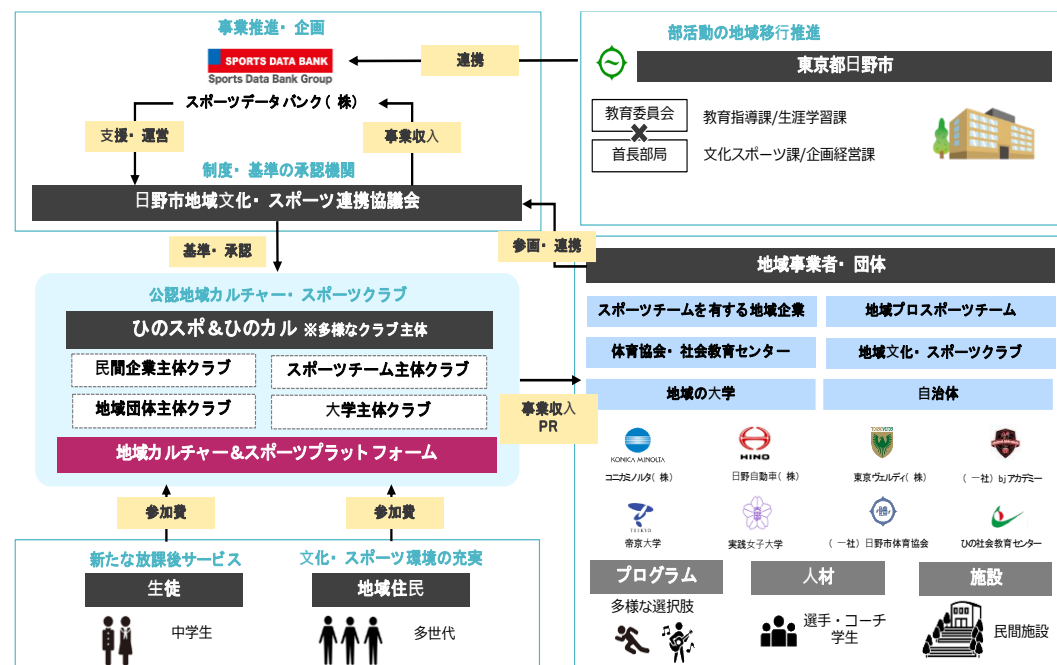
主な取組例

▼活動概要

拠点校名 (代表校・次ページ拠点校ごと情報参照)	1)日野市立日野第一中学校 体育館 2)日野市立日野第二中学校 テニスコート
地域クラブ活動 実施種目	1)男子バスケットボール 2)ソフトテニス
運営主体名	1)東京八王子ビートレインズ((株)THTマネジメント) 2)日野市ソフトテニス連盟
運営類型	1)競技団体連携型 2)地域団体・人材活用型
1か月あたりの平均的な活動回数	1)月1~2回程度 上半期:3ヶ月間、下半期:5ヶ月間 2)月1~2回程度 上半期:3ヶ月間、下半期:4ヶ月間
指導者の主な属性	1)プロバスケットボールチーム 2)市内・各競技連盟
活動場所	日野市内学校体育施設
主な移動手段	公共交通機関・徒歩
1人あたりの参加会費等(年額)	上半期:0円 下半期:800円/種目(保険代実費)
1人あたりの保険料	生徒1人あたり:800円/年 ※参加費として徴収 指導者1人あたり:1,850円/年

▼運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)

- 委託元自治体：日野市教育委員会
- 委託先：スポーツデータバンク株式会社
- 運営主体：東京八王子ビートレインズ ((株)THTマネジメント)
日野市ソフトテニス連盟



2. 実証内容と成果

主な取組例

種目	男子バスケットボール	バレーボール	バドミントン	ソフトテニス
指導者	東京八王子ビートレインズ	東京ヴェルディバレーボールチーム	コニカミノルタ・バドミントン班	日野市ソフトテニス連盟
実施期間	前期：7/16(日)～9/3(日) 後期：11/26(日)～3/31(日)	10/28(土)～1/20(土)	10/29(日)～2/4(日)	前期：7/9(日)～9/17(日) 後期：11/19(日)～2/18(日)
申込期間	前期：6/16(火)～6/28(火) 後期：10/24(火)～11/7(火)	10/31(火)～11/14(火)	9/26(火)～10/10(火)	前期：5/31(水)～6/14(水) 後期：10/17(火)～10/31(火)
実施場所	前期：日野市立日野第三中学校 体育館 後期：日野市立日野第一中学校 体育館	日野市立七生中学校 体育館	日野市立日野第四中学校 体育館	前期：日野市立日野第一中学校 ソフトテニスコート 後期：日野市立日野第二中学校 ソフトテニスコート
参加対象	市立全中学校男子生徒 ※初心者歓迎	市立全中学校女子生徒 ※初心者歓迎	市立全中学校生徒 ※初心者歓迎	市立全中学校生徒 ※初心者歓迎
参加費	前期：無料 後期：800円(税込)	800円(税込)	800円(税込)	前期：無料 後期：800円(税込)
時間	前期：10:00～12:00 後期：15:30～17:30	16:30～18:30	16:00～18:00	前期：13:00～16:00 後期：14:00～16:00
定員	前期：40名程度（初級・上級） 後期：30名程度	40名程度	40名程度	前期：35名程度 / 後期：30名程度
応募数	前期：25名 / 後期：24名	37名	14名	前期：28名 / 後期：28名
参加数	前期：16名 / 後期：21名	34名	14名	前期：27名 / 後期：27名
参加者充足率*	前期：40% / 後期：70%	85%	35%	前期：77% / 後期：90%
前期・後期 継続人数	6名	—	—	9名
継続率*	24%	—	—	32%

*[継続率] = 前期・後期継続人数 ÷ 後期参加人数 *[参加者充足率] = 参加数 ÷ 定員

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 運営手法や安全等の基準づくり
- ・ 運営主体支援を民間企業（スポーツデータバンク株式会社）へ委託
- ・ 運営主体（民間）による地域クラブの運営（アプリを活用した連絡調整等）
- ・ 満足度、成果、課題を抽出するため生徒・保護者・指導者へアンケート調査の実施

取組の成果①

【運営手法・安全等の基準づくり】

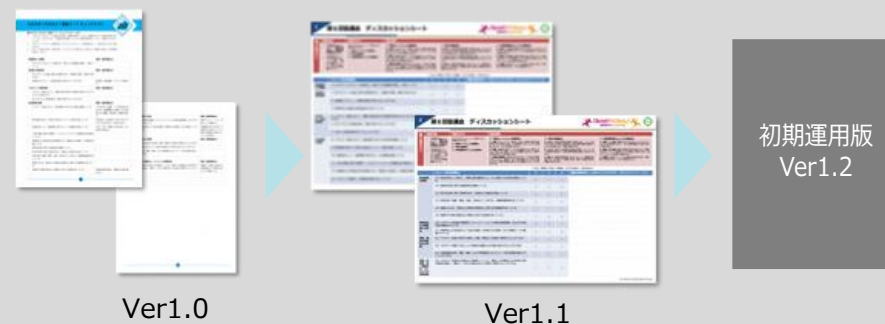
今年度は特に、持続可能なスポーツ文化活動の運営基準について、協議会内で議論・整理を行なっている。今年度は協議会を4回開催し、協議会内の議論と評価の結果から、「初期運用版Ver1.2」として「ひのスポ！ひのカル！認証コード」を作成した。認証コードは、活動・価値観を定義するとともに、参加する指導団体が持つべき参加基準、運営基準及び資格基準を定義するものである。また、活動内容や理念、価値観を理解しているか、指導団体がもつべき資格や基準を満たしているか、また各ひのスポ！の運営基準を理解したうえでその運営準備が整っているか、などを確認するための基準項目となっている。運用のための「認証項目チェックシート」も作成し、シート内の項目についても協議会内で議論を行なっている。

特に工夫した事項

「ひのスポ！ひのカル！認証コード」の運用版作成にあたり、協議会の中でディスカッションを繰り返しながら、叩き台の「Ver1.0」に出た意見を分類化し、「Ver1.1」を作成。次の3つの観点で再度ディスカッションし、「初期運用版Ver1.2」へと改変した。

- ①「認証コードとしての重要性」
- ②「実行の難易度」
- ③「初期運用版Ver1.2での優先度」

■ 「ひのスポ！ひのカル！認証コード」



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

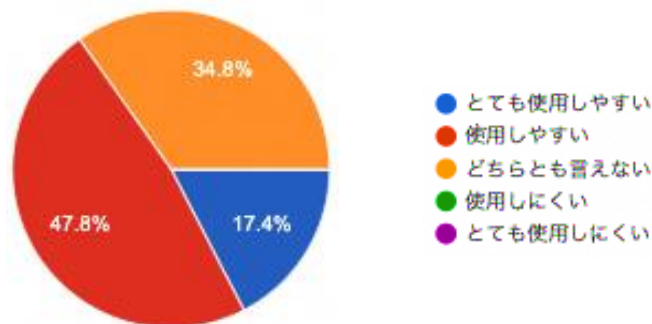
[アプリを活用した運営について]

- ・ 連絡、出欠席等の管理アプリ「Band」を利用
 - ・ 地域クラブ活動で連絡調整を行なった指導者へのアンケート結果では、65%が「使用しやすい（とても使用しやすい）」と回答した。
 - ・ 地域クラブ活動に参加した生徒の保護者アンケート結果では、85%が「満足（とても満足）」と回答した。『出欠連絡が入れやすい。活動報告があり、成果が分かりやすい』『写真も投稿していただき教室の様子がみれて良かった』などの声が多数挙げられている。
 - ・ 一方で「どちらとも言えない」と回答した保護者15%のうち、『最初の登録に戸惑った』『操作が難しい』『必要な情報にたどり着く方法がよくわからない』ことを理由に挙げた方もいた。
- ➡ 連絡手段、写真共有ツールとしての利便性がある一方で、初期設定や登録操作等慣れない保護者にとっては、一部抵抗感もある結果となった。

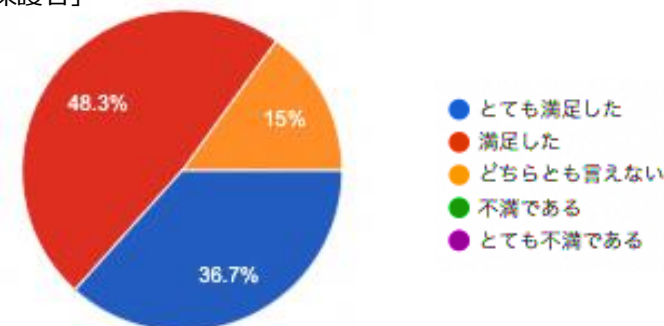
取組の成果②

■アプリを活用した連絡調整の満足度（実証後アンケート調査結果より）

[指導者]



[保護者]



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

【アプリを活用した運営について】

- 連絡、出欠席管理アプリBandの利用方法について、説明動画を制作し、主な機能紹介「掲示板」「トーク」「アルバム」や初期設定（参加者の名前変更）についての案内をオンライン説明会として実施。複数種目の実施により同日同時刻での説明会も必要になるため、前期実施した対面での説明会から、後期では完全オンライン型へと切り替えを行った。

特に工夫した事項

【アプリの説明動画の活用】



出典：スポーツデータバンク（株）

今後の課題と対応方針

【運営手法・安全等の基準づくり】

- 「初期運用版Ver1.2」の利用にあった加筆修正
- 運用方法の決定（指導団体への紙配布・データ共有など）



- 内容の周知徹底や定期的な内容の見直し

【アプリを活用した運営について】

- 地域クラブ活動の連絡ツールとして初期設定・登録など支援が必要



- 制作済み解説動画の情報更新や、補足説明の機会設定

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- 日頃から対象年代を指導するクラブやアカデミーを保有する、既存の団体・指導者の確保

取組の 成果

【指導者研修】

令和5年度事業では、委託事業者（スポーツデータバンク株式会社）により、メイン指導者に対する事前研修を、オンデマンド動画を活用して行なった。地域クラブを安心・安全に運営するため、技術指導に関するだけでなく、運営全般について触れた内容となっている。

▶ 地域クラブ活動の指導者は、技術指導以外にも、教育的意義、安全管理、ハラスメントの防止などの知識が求められるため、研修制度・認証制度の構築が必要となる。以下が、現在の研修メニューとなっている。

1. 自然災害への対応
2. 救急蘇生法 一次救命処置と熱中症
3. 部活動における防犯について
4. コンプライアンスの重要性とハラスメントの防止
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応
6. 個人情報の取り扱いについて

【指導者の量：人材募集・連携Ⅱ型の導入】

- 地域企業、団体と市教育委員会が共に作る「新しい地域クラブ活動」ひのスポⅠ型を本格実施した。
- 子供たちの体験活動の場を広げるため、ひのスポⅠの趣旨に沿う地域企業、団体、大学が実施している既存の取り組みを紹介する「ひのスポⅠひのカルⅠ連携プログラム」（ひのスポⅠひのカルⅠ連携Ⅱ型）として地域で指導実績のある、既存教室の活用を開始した。

▶「連携Ⅱ型」第一弾 COPERUプロジェクト（明星大学）によるプログラミング体験教室 Zoomによるオンライン開催

▶「連携Ⅱ型」進行中 ひの社会教育センターによる以下 8 教室

剣道、トランポリン、日曜ドラム、書道、学習リフレッシュ&リラックスヨガ、アドベンチャークラブ（登山）、中高生スポーツ、けん玉道場

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

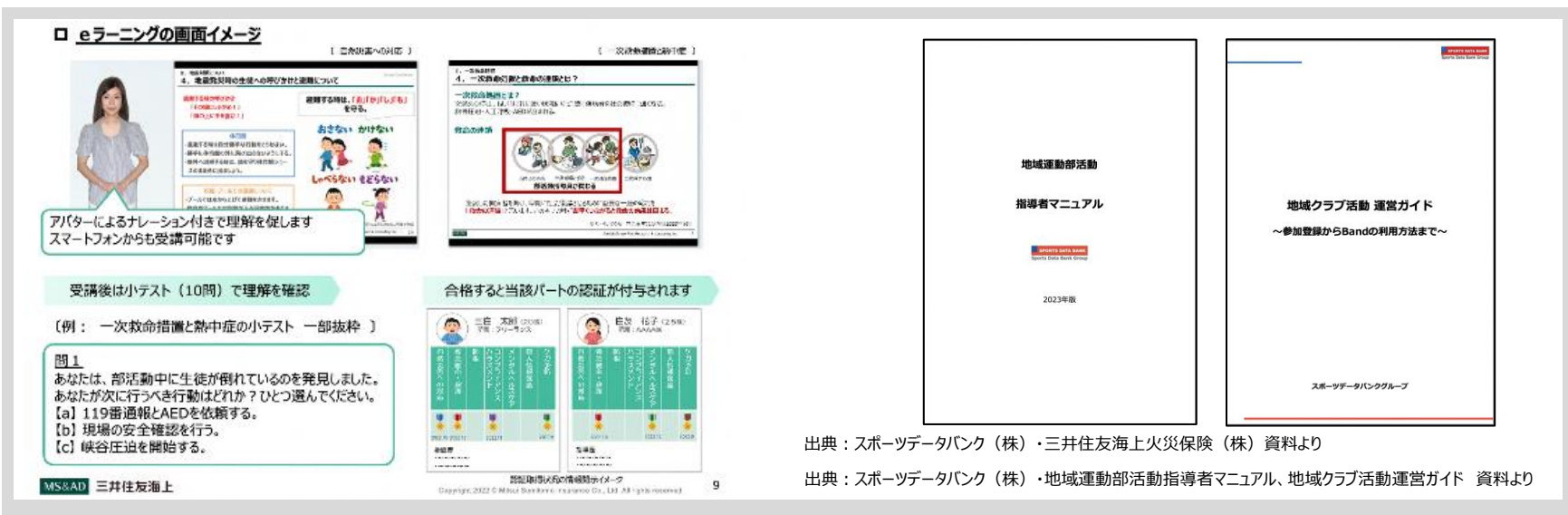
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

【e-Learningの活用】

- 地域クラブ活動の指導者研修は、委託事業者（スポーツデータバンク）が三井住友海上火災保険（株）と連携開発したe-Learningプログラムを活用した。また、委託事業者（スポーツデータバンク）の作成した運営マニュアルをもとに、運営に関する事前レクチャーを各指導団体へと実施した。



特に工夫した事項

□ eラーニングの画面イメージ

【二次研修への対応】

【一次研修動画と練習問題】

アプリによるナレーション付きで理解を促します
スマートフォンからも受講可能です

受講後は小テスト（10問）で理解を確認

合格すると当該パートの認証が付与されます

問1
あなたは、部活動中に生徒が倒れているのを発見しました。
あなたが次に行うべき行動はどれか？ひとつ選んでください。
【a】119番通報とAEDを依頼する。
【b】現場の安全確認を行う。
【c】峡谷圧迫を開始する。

MS&AD 三井住友海上

Copyright © 2022 © Mitsui Sumitomo Insurance Co., Ltd. All rights reserved.

地域運動部活動
指導者マニュアル
2023年版

地域クラブ活動 運営ガイド
～参加登録からBandの利用方法まで～
スポーツデータバンクグループ

出典：スポーツデータバンク（株）・三井住友海上火災保険（株）資料より

出典：スポーツデータバンク（株）・地域運動部活動指導者マニュアル、地域クラブ活動運営ガイド 資料より

今後の課題と対応方針

【指導者確保の環境整備】

- 地域クラブ活動の指導者に向けた指導者研修を整備し、指導者の質の保証、量の確保、育成を目指す
- 地域クラブに関わる人材登録の促進、地域人材の発掘（募集）および、教員の兼業兼職を検討するための教員のニーズ調査を実施する

【アプリを活用した運営について】

- 地域クラブ活動の連絡ツールとして初期設定・登録など補足が必要
- 制作済み解説動画の情報更新や補足説明の機会設定

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・ 協議会に参画する地域企業・スポーツチーム・団体・大学に加え、文化スポーツ活動を提供する新たな団体との連携を開始
- ・ ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型の実施
- ・ 財源確保検討のための企業ヒアリング実施

取組の成果

【日野市地域文化スポーツ連携協議会参加企業・団体、新たに文化活動団体との連携開始】

- ・ より多様なニーズに対する選択肢を提供するためのひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型に関し、協議会参加の各企業・団体へ詳細を説明
- ・ 市内全中学生向け実施したアンケート調査から、種目希望調査から、スポーツ以外にも文化活動のニーズを確認
- ・ 市内で文化スポーツ活動を提供する「ひの社会教育センター」が新たに協議会へ加入
- ・ アンケート調査上位回答にあった、料理のプログラムを「ひのカル！」として実施。連携Ⅱ型として文化スポーツ活動を実施した

団体名	関わり・役割
スポーツデータバンク(株)	再委託受託者・事業推進及び事務局・ひのスポ！運営及びステークホルダーとの連携・調整
コニカミノルタ(株)	ひのスポ！指導者の選出・協議会への参画
日野自動車(株)	ひのスポ！指導者の選出・協議会への参画
(一社) bjアカデミー	ひのスポ！指導者の選出・協議会への参画
(一社) 日野市体育協会	地域部活動指導者・会場などの協力・協議会への参画
東京ヴェルディ(株)	ひのスポ！指導者の選出・協議会への参画
帝京大学	協議会への参画
実践女子大学	協議会への参画
公益財団法人社会教育協会 ひの社会教育センター	ひのカル！指導者の選出・協議会への参画・ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型実施
日野市 教育委員会・市長部局	本事業の主管課・方針の決定、ステークホルダーとの連携・調整、財源確保の見直し等

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

【外部指導団体の主催するスポーツ・文化活動との連携】

地域のスポーツ教室・習い事教室等との連携によるスポーツ及び文化活動のうち、ひのスポ！ひのカル！の趣旨に沿ったものを事務局にて選定し、「ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型」として周知することで、より多様な選択肢の提供を目指した。

【連携Ⅱ型の実施】

「連携Ⅱ型」第一弾 明星大学

COPERUプロジェクト プログラミング体験教室
 Zoomによるオンライン開催
 全3コース・11/9～12/19

「連携Ⅱ型」第二弾 ひの社会教育センター

以下8教室
 剣道、トランポリン、日曜ドラム、書道、
 学習リフレッシュ&リラックスヨガ、中高生スポーツ、
 アドベンチャークラブ（登山）、けん玉道場

■Ⅰ型と連携Ⅱ型の違い：第6回協議会資料より抜粋

類型	Ⅰ型	連携Ⅱ型
形式	自主開催型・直営型	外部の既存プログラムの紹介・送客型
実施期間	2023年～（実施中）	2023年11月～（導入予定）
主催	日野市教育委員会	地域の指導団体・企業などの事業者
企画運営	<ul style="list-style-type: none"> ひのスポ！ひのカル！事務局による運営 ひのスポ！ひのカル！コードによる認証管理 Band等のツールを利用した運営 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の指導団体・企業ほかによる運営 各運営元ごとに、異なる運営ツールを利用
会場	<ul style="list-style-type: none"> 日野市内中学校 日野市および近隣の施設 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の指導団体・企業が利用する施設
募集	<ul style="list-style-type: none"> ひのスポ！ひのカル！事務局による募集および参加受付 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の指導団体による募集および参加受付 ひのスポ！ひのカル！事務局を通じた生徒および保護者への紹介
受益者負担	R5後期より、受益者負担（800円）を開始	各運営元、プログラムにより異なる

▶当連携では、ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型の開催と募集告知を学校情報発信システムを利用し、保護者へ情報提供を行った。明星大学からは、告知後に参加者数が増加したという報告を受けている。オンラインでの開催プログラムも、体験機会の重要な選択肢である結果となった。

特に工夫した事項

今後の課題と対応方針

【人材補完と更なる関係団体との連携強化】

・企業・団体の指導者からは、事業理念に対する理解を得られている一方、団体によっては持続的に関わるリソース（人材）が限定されている実態もある

▶ 「ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型」の拡充とともに、関係団体・分野との連携強化により、外部団体が抱える指導者の取り込みを進める

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

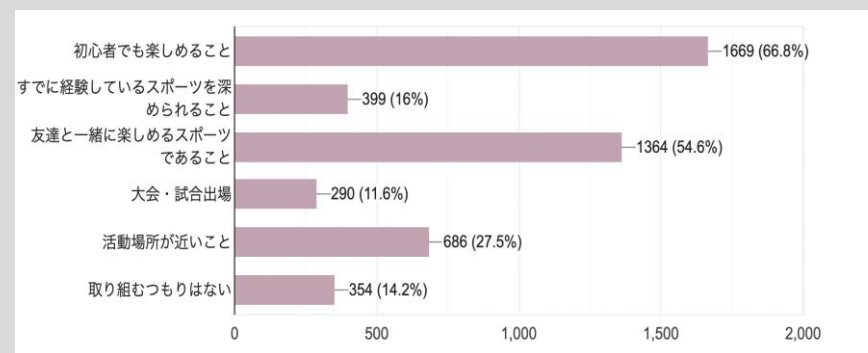
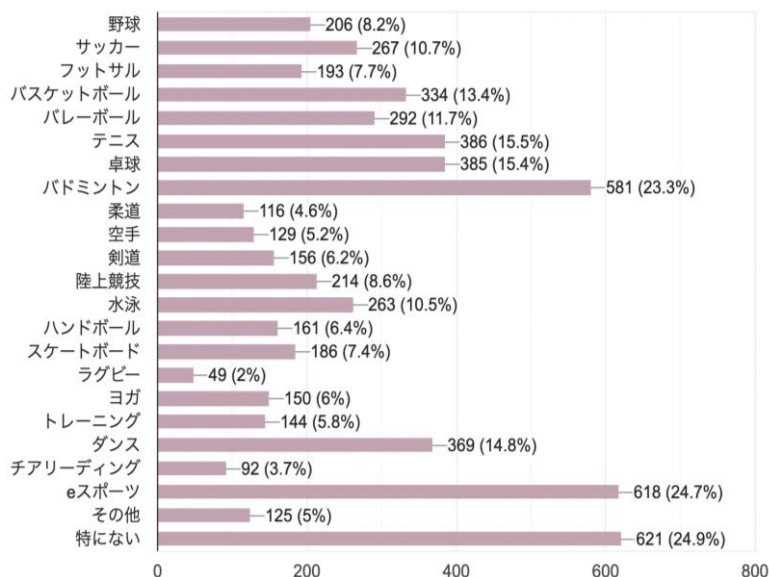
取組事項

- 生徒の活動ニーズの把握（市内全中学校生徒向けアンケート調査の実施）
- アンケート調査結果をもとにした、新しい選択肢の提供
- 種目数・連携事業者の拡大 昨年度実施種目：3種目 → 今年度実績：I型10種目 連携II型2事業者

【市内全生徒のニーズ調査】

- 市内中学生約4500名へ学習者用端末を利用したアンケート調査を行い、活動ニーズの把握を実施。
- 23.3%の生徒がバドミントンを希望。男女別・経験/目的別の集計でも、バドミントン（男女共通）及び、バレーボール（女子）のニーズを確認した。

■市内全中学生向けアンケート調査



取組の成果 1

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

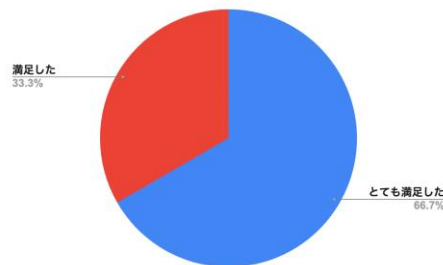
取組の 成果2

[新しい選択肢の提供]

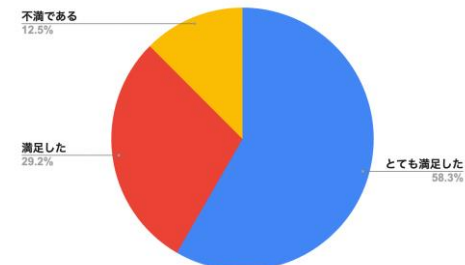
- ・ バドミントン、女子バレーボールの参加者および保護者アンケートの結果では、参加者66.7%が「とても満足した」33.3%が「満足した」と回答、保護者58.3%が「とても満足した」29.2%が「満足した」と回答し、参加生徒・保護者共に満足度が高い結果となった。
- ・ 市内8中学校のうち、学校部活動としてバドミントン部があるのは1校のみであり、部活動にない種目の提供、機会確保においてニーズとマッチングした結果となった。

■地域クラブ活動満足度（実証後アンケート調査結果・バドミントン、女子バレーボールの参加者回答より）

[参加者]



[保護者]



[多様なニーズに対する新しい選択肢・実施活動の拡充]

取組の 成果3



- ・ 昨年度実施した3種目（正しい走り方（陸上）、女子バスケットボール、卓球）に加え、男子バスケットボール、ソフトテニス、女子バレーボール、バドミンの4種目を追加した。また、文化活動として、けん玉、料理（R5年度・文化庁委託事業より）も実施。
- ・ 令和5年度は、スポーツ・文化合計で、全10種類を実施した。
- ・ 今後も連携事業者を拡大し、多様なニーズに合わせた選択肢の提供を継続する。

2. 実証内容と成果

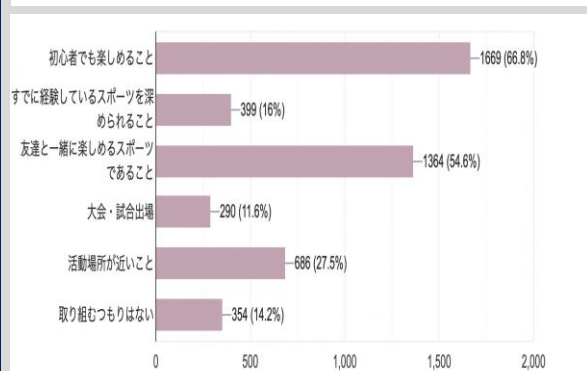
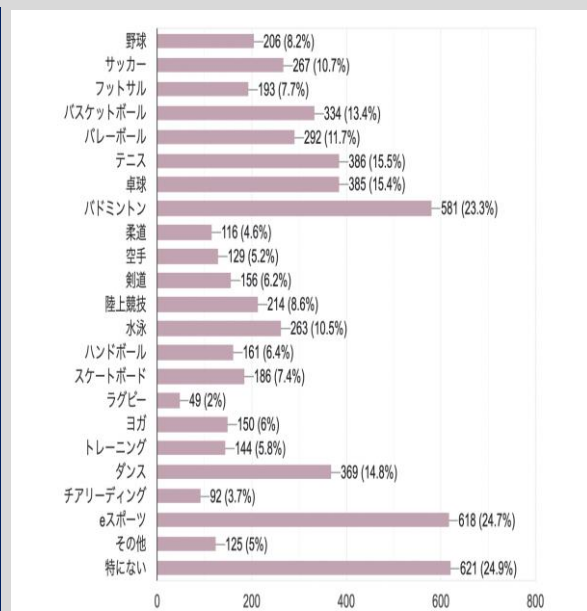
ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

【市内全中学校生徒向けアンケート調査の実施】

- 市内全中学生向けアンケート調査では、詳細ニーズの把握のため、単純集計のほか、全体および男女別等でのクロス集計を実施。
- 「初心者でも楽しめること」と「すでに経験しているスポーツを深められること」の回答ごとに人気の種目を集計した。

■ 市内全中学生向けニーズ調査



■ 市内全中学生向けニーズ調査（男女生徒に人気の種目）

● 「初心者でも楽しめること」を重視した生徒

	種目	回答数	割合
1	バドミントン	359	10.2
2	eスポーツ	327	9.3
3	卓球	264	7.5
4	テニス	262	7.4
5	ダンス*	228	6.5
6	バスケットボール	215	6.1
7	バレーボール	185	5.3
8	サッカー	160	4.5
9	水泳	157	4.5
10	陸上競技	138	3.9

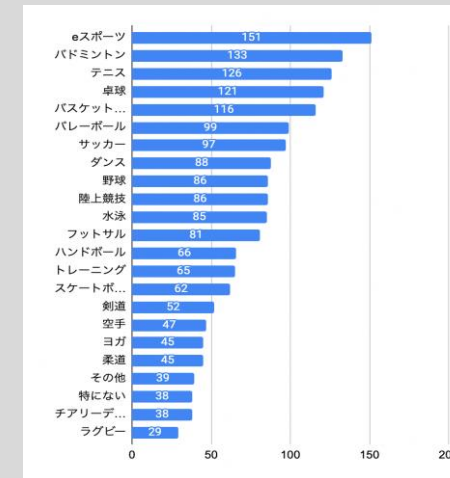
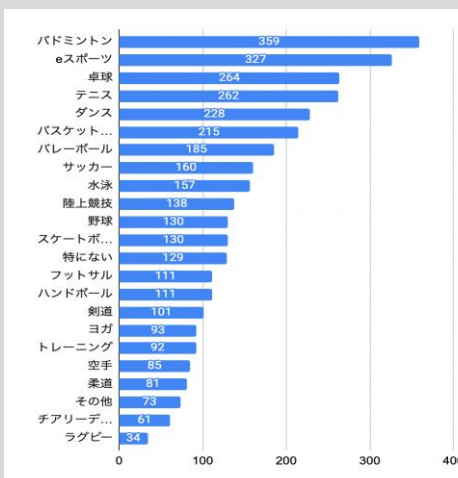
● 「すでに経験しているスポーツを深められること」または「大会・試合出場」を重視した生徒

	種目	回答数	割合
1	eスポーツ	151	8.4
2	バドミントン	133	7.4
3	テニス	126	7.0
4	卓球	121	6.7
5	バスケットボール	116	6.5
6	バレーボール	99	5.5
7	サッカー	97	5.4
8	ダンス*	88	4.9
9	野球	86	4.8
10	陸上競技	86	4.8

特に工夫した事項

単純集計

クロス集計



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



今後の課題と対応方針

【生徒のニーズと実際の応募数のギャップ】

- 男女問わず、最もニーズの高い種目としてバドミントンを実施したが、参加定員40名の枠に対し、応募人数は13名となった。
- 参加者の充足率は32%にとどまっており、事前ニーズ調査と実際の応募数の乖離に対し、さらなる検討が課題となっている。
- 学校側にも周知依頼をし、募集を行ったが、拠点校の参加者が0名のプログラムもあった。

【人材の確保】

- バレーボールの運営主体となったチームでは、指導者人材の固定ができないことを事前に確認。
- 体育協会を通じ、バレーボール連盟からの人材の連携、協力をいただき、全実施回で指導に参加いただいた。

【拠点校のセキュリティ管理】

- 通常、学校体育館の夜間開放などでは、校舎管理依頼をしている委託業者に開錠・施錠を別途依頼している。
- ひのスポ！では、指導者に複製した鍵を渡し、セキュリティ管理もしていただいた。
- ひのスポ！実施後の体育館利用者（夜間開放等）との引継ぎをその都度、校舎管理委託業者に知らせる必要がある。

【考えられる要因と対応案】

- 実施曜日、実施時間帯、実施場所、募集情報の周知不足、認知不足
- ▶ 上記要因を勘案しながら、周知方法の改善と種目数拡大を検討
- 学校により盛んな部活動が異なるため、拠点校で実施する種目を変えて実施することで、参加者数の分析などを行う。

【考えられる要因と対応案】

- 運営主体同士による、民民連携による指導者の確保
- 体育協会との継続的な連携により、人材を補うことで持続的な活動を目指す

【考えられる要因と対応案】

- ▶ 校舎管理を委託している業者、実施担当者と共に、ひのスポ！実施の周知が必要

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・ 後期から参加料800円（保険料実費代として）を徴収
- ・ 「就学援助世帯」「生活保護世帯」を申し出た参加者へ参加費免除を実施

【実施後アンケート調査結果 費用に対する満足度】

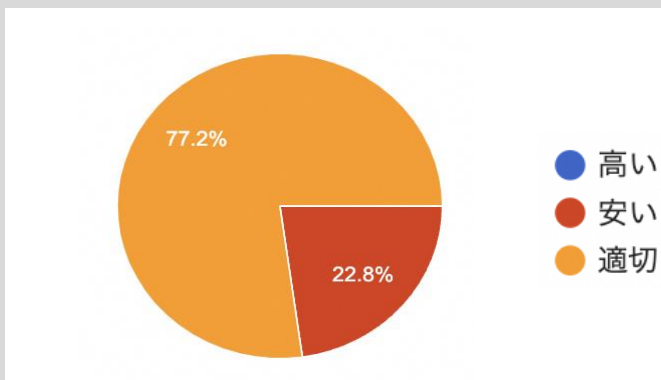
- ・ 参加者の保護者に対し、実証終了後にアンケートを実施。77%が参加料について「適切」、22.8%が「安い」と回答。

▶参加費用の負担について、一定の理解が得られていることがわかった。

一方、改善点・希望することを問う設問に対しては、生徒・保護者双方から「もう少し基本的なところから指導してほしい」「もっと専門的な練習もしたかった」「基本練習をするグループと、応用練習をするグループを設けてほしい」など、レベル別・コース別の指導を求める回答が多く、指導内容の多様なニーズを確認した。

取組の成果1

■ 参加費用に関する調査 | 適切な費用だったかどうかについて
 (実証後アンケート調査結果・保護者向け)



■ 「就学援助世帯」「生活保護世帯」の対象人数

後期実施種目	後期参加者数	参加費免除数	適用率
バドミントン	14名	3名	21%
バレーボール	34名	5名	15%
ソフトテニス	27名	4名	13%
男子バスケットボール	24名	3名	13%

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

[募集通知及び支払い方法のICT化]

- 学校情報発信システム及び学習者用端末から閲覧可能な「ひのスポ！ひのカル！専用サイト」による募集の告知
- 参加費の支払いは、クレジットカードでのオンライン決済が可能な「Square」サービス（Block社／米国）を導入

[スクエアアプリの活用]



特に
工夫した
事項1

今後の
課題と
対応方針

- 受益者負担の金額は、専門家の指導を受けられるプログラム内容に対し、十分な価値提供が行われていることが認められた。今後、実施回数の平準化や、技術レベル別、経験別のコース設定などの検討を行い、活動自走化の一つの財源としての定着を目指す。
- 子供たちの体験格差が生まれないよう、生活困窮家庭に対する継続的な支援の検討及び環境整備を目指す。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

- 令和4年度拠点校2校から、R5年度は全中学校8校へと拡大
- 校庭、体育館以外の利用促進として、「学校食堂」の利用
- 教育委員会と学校との間での部活動検討会議の実施

取組の成果

【拠点校の増加】

- 教育委員会を中心に、学校への周知、理解促進のための活動を実施。市内全8中学校全ての体育施設で、活動を展開した。
- 拠点校が増えたことで、学校側での理解が進んだことから、今後のひのスポ！本格事業化へ向けて、更なる連携強化のための「部活動検討委員会」を開催。部活動地域移行の課題解決について、学校が主体となった議論を深めるとともに、現場の教員や子どもたちに「ひのスポ！ひのカル！」を浸透させる基盤が整った。
- 学校体育施設以外の場所として、学校に併設する食堂を文化活動において利用した。

特に工夫した事項

- 拠点校の増加のため、学校長を通じた地域クラブ活動「ひのスポ！ひのカル！」の理念を丁寧に説明
- 各拠点校との、プログラム実施前の打ち合わせ（学校・教育委員会・企業及びスポーツ指導団体・委託先）
- 拠点会場の鍵、セコムキーの借用合意書を市教育委員会と学校と締結。複製した鍵を指導者へ預けることで、校舎管理者（シルバー人材）に依頼しなくても済む体制を組む。

今後の課題と対応方針

- 今年度は市内全8中学校の体育施設が開催場所となった。一方で、活用方法やルール、規則（営利目的の利用を含む）等、一般開放との区分け見直しを行う必要がある。



- 庁内関係部署にひのスポ！ひのカル！の認知と一般開放との区分けについて検討を進める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ク：その他の取組

取組事項

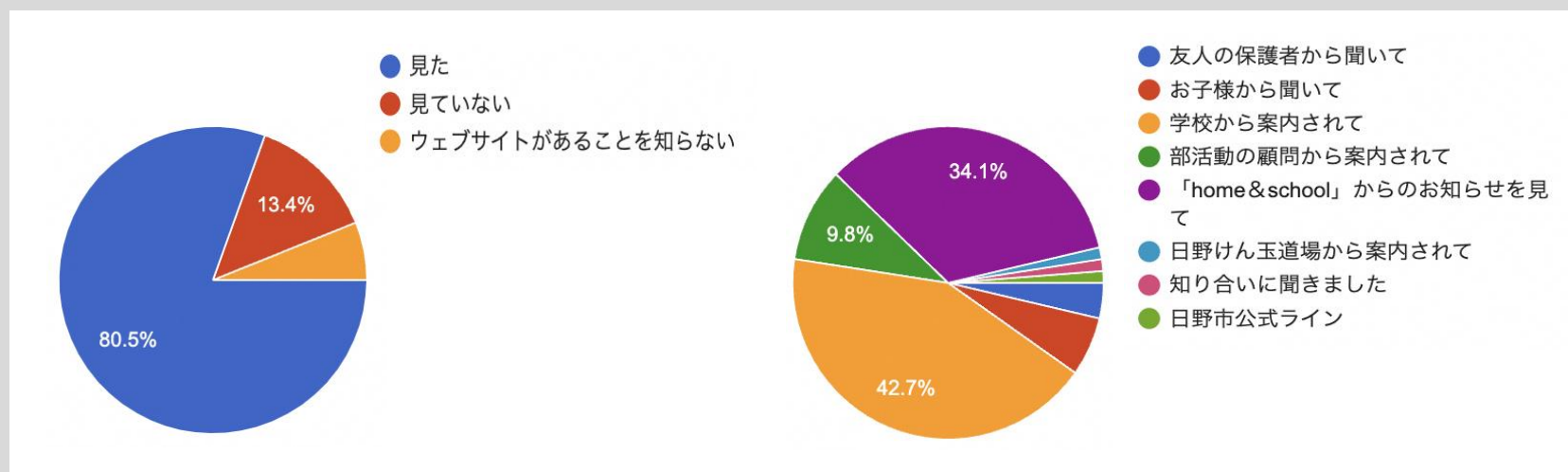
- 参加者への周知および会場アクセスの利便性向上を目的とした、のぼり旗の制作。一般開放と異なる、地域クラブ活動実施中の周知
- ひのスポ！ひのカル！専用ウェブサイトを立ち上げ、ひのスポ！ひのカル！の開催内容、参加者募集を周知
- 保護者向け説明会動画の制作（活動紹介動画含む）
- 学校情報発信システムを活用した参加者募集

取組の成果1

[専用ウェブサイト閲覧・認知経路と参加募集の動線]

- 地域クラブ活動「ひのスポ！ひのカル！」に参加した、保護者の80%がウェブサイトを読覧した。
- 地域クラブ活動「ひのスポ！ひのカル！」に参加した、保護者約34%が学校情報発信システムで活動内容を知ったと回答。
- 最も多い回答は「学校から案内されて」の42%であり、今後も学校との連携を通じ、情報発信を行うことが重要となる。

■参加申込の際のウェブサイト閲覧（実証後保護者アンケート調査結果より） ■ひのスポ！ひのカル！を知ったきっかけ（実証後保護者アンケート調査結果より）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

[認知度向上、参加申し込みの動線確保]

■ひのスポ！ひのカル！専用ウェブサイト



■ひのスポ！ひのカル！会場設置用のぼり旗



特に
工夫した
事項 1



■ひのスポ！ひのカル！ロゴ制作

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

取組の成果2

【保護者の事業への理解促進】

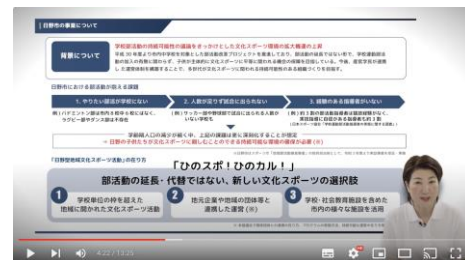
- 地域クラブ活動「ひのスポ！ひのカル！」に参加した保護者からは、「興味があるスポーツを、勝敗だけにこだわらず気軽に楽しく活動できるような良さがある」と、見学時に感じたコメントがあった。また、「専門的な指導者からの指導は、子供たちにとっていい事だと思う」「楽しく団結して向上心が持てた」「日野市としても、スポーツ活性化は良いことだと思う」「他校の生徒との関わりがあることが良い」などの感想も寄せられた。活動の背景理解とともに、継続的な実施を希望する声があがっている。

特に工夫した事項2

【保護者説明会動画の制作】

- 運営団体の紹介、市の事業紹介、国の方針などを、イラストとナレーションで解説
- 前期、対面型の保護者説明会から、後期ではオンライン説明会への移行
- 運営負担の軽減による、持続的な運営手法の確立

■ひのスポ！ひのカル！保護者説明会動画



今後の課題と対応方針

【認知度向上・参加者人数の増加】

- 多くの活動で、大幅に定員を割る活動が出ており、活動全体や各プログラムの認知が進んでいない



- 学校との連携を強化するとともに、4,5月に行われる部活動説明会とあわせ、地域クラブ活動の情報を直接届ける機会を設ける（チラシ配布など）
- 地域クラブ活動の情報を、市の公式ホームページなどでも発信し、広域的な情報発信を積極的に行う

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

前期

START-DASH
みんなで作る新しい選択肢！
2023年7月16日 - 9月3日 OPEN FOR ENTRIES!!

実施種目：バスケットボール(5人制)
指導者：東京八王子ビートルズ
実施期間：2023年7月中旬～9月上旬
申込期間：6.28(日)末

実施場所：日野市立日野第三中学校
参加対象：市立全中学校男子生徒 ※初心者歓迎
参加費：無料
定員：ペーシック(初級)20名、アドバンス(上級)20名

男子バスケットボール

START-DASH
みんなで作る新しい選択肢！
2023年7月9日 - 9月17日 OPEN FOR ENTRIES!!

実施種目：ソフトテニス
指導者：日野市ソフトテニス連盟
実施期間：2023年7月上旬～9月中旬
申込期間：6.14(日)末

実施場所：日野市立日野第一中学校
参加対象：市内全中学校生徒(1年生～3年生) ※初心者歓迎
参加費：無料
定員：ペーシック(初級)25名、アドバンス(上級)25名

ソフトテニス

後期

START-DASH
みんなで作る新しい選択肢！
2023年11月26日 - 2024年3月31日 OPEN FOR ENTRIES!!

実施種目：バスケットボール(5人制)
指導者：東京八王子ビートルズ(東京地区TMTマスタース)
実施期間：2023年11月下旬～2024年3月下旬
申込期間：2023.11.7(日)末

実施場所：日野市立日野第一中学校 体育館
参加対象：市立全中学校男子生徒 ※初心者歓迎
参加費：800円(税込) ※裏面をご覧ください
定員：30名程度

男子バスケットボール

START-DASH
みんなで作る新しい選択肢！
2023年11月19日 - 2024年2月18日 OPEN FOR ENTRIES!!

実施種目：ソフトテニス
指導者：日野市ソフトテニス連盟
実施期間：2023年11月中旬～2024年2月中旬
申込期間：2023年10月31日(火)末

実施場所：日野市立日野第二中学校 テニスコート
参加対象：市立全中学校生徒 ※初心者歓迎
参加費：800円(税込) ※裏面をご覧ください
定員：30名程度

ソフトテニス

START-DASH
みんなで作る新しい選択肢！
2023年10月28日 - 11月20日 OPEN FOR ENTRIES!!

実施種目：バレーボール
指導者：東京ヴェルディバレーボールチーム
実施期間：2023年10月28日(土)～2024年1月20日(土)
申込期間：2023年10月10日(月)末

実施場所：日野市立七生中学校 体育館
参加対象：市立全中学校女子生徒 ※初心者歓迎
参加費：800円(税込) ※裏面をご覧ください
定員：40名程度

バレーボール

START-DASH
みんなで作る新しい選択肢！
2023年10月29日 - 2024年2月4日 OPEN FOR ENTRIES!!

実施種目：バドミントン
指導者：コニカミノルタ
実施期間：2023年10月29日(日)～2024年2月4日(日)
申込期間：2023年10月10日(火)末

実施場所：日野市立日野第三中学校 体育館
参加対象：市立全中学校生徒 ※初心者歓迎
参加費：800円(税込) ※裏面をご覧ください
定員：40名程度

バドミントン

ひのスポ！ひのカル！専用ウェブサイト

ひのスポ！ひのカル！
みんなで作る新しい選択肢を
さあ一緒に
部活動だけじゃない。
あなたがやりたいことが、
きっと見つかる！

ひのスポ！ひのカルHP トップ画面

GOALS
産学官長で新しい選択肢をつくり、子供たちにとって、
文化・スポーツ活動をアクセシブルなものにすること

- 1 学校単位ではなく地域単位
- 2 地元企業や地域の団体と連携
- 3 市内の様々な施設を活用

日野市地域文化スポーツ連携協議会

協賛企業: TONSOVERDY, KONICA MINOLTA, HINO, 帝京大学, 社会福祉センター, スポーツバンク

ひのスポ！ひのカル！紹介

募集種目一覧 (令和5年度)

男子バスケットボール	ソフトテニス
<p>指導者：東京八王子ビートルズ(東京地区TMTマスタース)</p> <p>実施：日野市立日野第一中学校 体育館 対象：市立全中学校男子生徒 ※初心者歓迎 実施：11/26(日)～3/31(日) 募集：10/24(日)～11/7(日) 申込期間：2023.11.7(日)末</p>	<p>指導者：日野市ソフトテニス連盟</p> <p>実施：日野市立日野第二中学校 テニスコート 対象：市立全中学校生徒 ※初心者歓迎 実施：11/19(日)～2/18(日) 募集：10/17(日)～10/31(日) 申込期間：2023.10.31(火)末</p>
女子バスケットボール	バドミントン
<p>【募集終了】 陸上(ほいでいせり)</p> <p>指導者：協賛企業 実施：日野市立日野第三中学校 体育館 対象：市立全中学校男子生徒 ※初心者歓迎 実施：10/14(土)～3/17(日) 募集：9/12(日)～9/26(日) 申込期間：2023.9.26(日)末</p>	<p>【募集終了】 女子バスケットボール</p> <p>指導者：協賛企業 実施：日野市立日野第三中学校 体育館 対象：市立全中学校女子生徒 ※初心者歓迎 実施：10/14(土)～3/31(日) 募集：9/12(日)～9/26(日) 申込期間：2023.9.26(日)末</p>

募集情報

会場アクセス

日野市駅は、最も近い公共交通機関の駅になります。

陸上：日野市立日野第三中学校 クラウンド
女子バスケットボール：日野市立日野第三中学校 体育館

バス：大塚上中学校、三沢中学校、会場(体育館)

※バス停から会場までは徒歩で移動してください。

アクセスマップ

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料、ほか）

13 今後の事業課題の整理

● R5前期・後期の活動から見える「事業課題」と「対応施策」

参加募集の運用、認知度や参加者の増加

- 認知度が低く、参加者が増えない
- 適切なターゲット層への告知・宣伝が不足
- 申込み、参加費支払い、およびその金額にハードルがある

公開用HPの開設など、広報プラットフォームの拡充

生徒ニーズに即したアカデミー種目の拡大

- 生徒のニーズと実際の応募数のギャップ
- 持続的な種目の選定基準や評価の考え方
- 文化活動のアカデミー増設

連携II型によるアカデミー種目の増設と運用

課題

アカデミー指導者の確保、指導者としての参加基準

- 適切な指導者の開拓、連携が不足
- 指導者の能力や経験の設定が不明確
- 基準や資格の明確化が不足

認定コード（チェックリスト）による基準値の設定と運用

持続可能性を前提とした運営資源の確保

- 定期的な寄付や資金調達に困難
- 依存する主要な資金源が限定的
- 受益者負担だけでは運営が困難

新たな資金調達手法の開発と運用

参加募集および施設利用における各中学校との協働体制

- 中学校との連携が不十分
- 施設利用の調整や排他的利用が問題
- 学校の期待とのギャップが存在

体育館以外の学校施設利用を可能にする各校との調整

© Sports Data Bank Group

16 認定コード（チェックリスト）改訂版Ver.1.1

● 第5回ディスカッションの結果まとめ（おもな意見を抜粋）

安全管理体制について

- より詳しく怪我の発生の際、保険の請求業務などをスムーズに行えるような体制づくりを持っていることを表記しておくこと

受益者負担と認定コードの関係について

- 今後のプログラム有償化に伴い、会費徴収や団体・企業の財務体制を表記しておくべき
- 受益者負担になり方向性が決まらないと、全体である認定コードについても決まらなく
- 受益者負担を賈うようであれば、リスコムも買うこととの構えができる。今はボランティア感覚
- 受益者負担をもらうようであれば、それを踏まえた体制を練るべき

研修について

- ハラズメントについては、指導者の年齢層が多々なることをふまえて、声かけの仕方や対応の仕方を変更して指導することは難しいのではないかと
- 研修では、個人として受けたのか、団体として受けたのかなども重要
- 何をもち「適切」なのかといった言葉が曖昧なため、定義すべき

認定コードの広さ・深さについて

- 施設の備品管理については、まだ粒度がまばらである
- 教育的な観点では大学、他のリソースは得意・専門とする団体から借りてくるなどで、コードの議論を長期的に行っていくべき
- いずれのチェック項目についても、初めて見る方にとって、わかりやすい具体例があると良い
- プログラムの事前開示などは、対応できない指導団体も出てくるのではないかと
- 配置等の管理など、最初から高いハードルを求められると厳しい

理念の明文化について

- 理念の言語化を議論できていないので、この機会に実施すべき
- ひのスポ！ひのカル！の理念が分かっていない中で、条件設定を決めるのは難しい
- 理念が決まっていなくて議論が進みにくい

運営と責任体制について

- 責任がどこにいくのか、一筋気になる点。運営体制を先に決めた方がよい
- どこまで指導者の責任となるのか不明
- 事故が起きた場合、事務局に連絡があるという体制が望ましいのではないかと

© Sports Data Bank Group

15 認定コード（チェックリスト）改訂版Ver.1.1

● 認定コードとは？（前回第5回資料より）

「ひのスポ！ひのカル！認定コード」の目的

- ひのスポ！ひのカル！の活動を定義するものである
- ひのスポ！ひのカル！の価値観を定義するものである
- ひのスポ！ひのカル！に参加する、指導団体がもつべき資格基準を定義するものである
- ひのスポ！ひのカル！の運営基準を定義するものである

ひのスポ！ひのカル！認定コード（チェックリスト）とは？

- 「ひのスポ！ひのカル！」の活動内容や理念、価値観を理解しているか、指導団体がもつべき資格や基準を満たしているか、また各アカデミーの運営基準を理解したうえでその運営準備が整っているか、を確認するためのリストです。
- このチェックリストは、各指導団体が「ひのスポ！ひのカル！」公式指導団体として、認定を受けるために使用されます。
- 各チェック項目の内容や、基準を満たしているかどうかの判断に迷った場合には、事務局と相談のうえ申請準備を進めてください。



© Sports Data Bank Group

17 認定コード（チェックリスト）改訂版Ver.1.1

● 認定コード（チェックリスト）Ver.1.1の概要（赤字部分が追加項目）

	Ver.1.0（第5回協議会）	Ver.1.1（第6回協議会）
事業理念への理解	1. ひのスポ！ひのカル！の活動主旨、理念および価値観を理解し、賛同している	1. ひのスポ！ひのカル！の活動主旨、理念および価値観を理解し、賛同している
指導者の管理体制	1. 各アカデミーの活動に適切な指導者を有し、配置等の管理、運営が可能である 2. 指導者のプロフィール情報を事前に開示することができる	1. 各アカデミーの活動に適切な指導者を有し、配置等の管理、運営が可能である 2. 指導者のプロフィール情報を事前に開示することができる 3. 管理記録と指導者の対応履歴を取り回している
アカデミーの運用体制	1. アカデミー実施において、経費の有無に関わらず希望者が参加できるプログラムを企画できる 2. 各プログラムの実施計画を、事前に開示することができる	1. アカデミー実施において、経費の有無に関わらず希望者が参加できるプログラムを企画できる 2. 各プログラムの実施計画を、事前に開示することができる 3. 予定した実施計画を終了することができる
安全管理の体制	1. アカデミー実施にあたり、緊急事態に対応できる体制を整備している 2. 緊急事態が発生した場合の対応法について、研修を実施している 3. 指導団体として、危機管理に関するルールの整備を実施している 4. 心身の発達に関する理解や、ハラズメントについての理解を促す研修をしている 5. 指導者および参加者の安全管理のため、感染症対策として運営を実施している 6. 感染症対策に関する実施体制を整備している 7. 胸中症対策に関する基準を持ち、指導および運営を実施している 8. 自然災害（地震、落雷、台風、大雪など）に対する、危機管理基準を持っている 9. 指導における、怪我および事故の再発防止に関する対策基準を持っている 10. 指導中の不慮の怪我および事故に対応する基準を持っている	1. アカデミー実施にあたり、緊急事態に対応できる体制を整備している 2. 緊急事態が発生した場合の対応法について、研修を実施している 3. 指導団体として、危機管理に関するルールの整備を実施している 4. 心身の発達に関する理解や、ハラズメントについての理解を促す研修をしている 5. 指導者および参加者の安全管理のため、感染症対策として運営を実施している 6. アカデミー実施時に、賠償責任保険に加入している 7. 怪我が発生した場合に、保険の請求業務をスムーズに実施できる体制を確保している 8. 感染症対策に関する実施体制を整備している 9. 胸中症対策に関する基準を持ち、指導および運営を実施している 10. 自然災害（地震、落雷、台風、大雪など）に対する、危機管理基準を持っている 11. 指導における、怪我および事故の再発防止に関する対策基準を持っている 12. 指導中の不慮の怪我および事故に対応する基準を持っている
参加費および保護者への対応	1. アカデミー参加者の保護者とコミュニケーションに必要な連絡環境、およびその担当が確保されている 2. 保護者および参加者の「私的な連絡」が排除される環境、および運営ルールが整備されている	1. アカデミー参加者の保護者とコミュニケーションに必要な連絡環境、およびその担当が確保されている 2. 保護者および参加者の「私的な連絡」が排除される環境、および運営ルールが整備されている
施設、備品の利用および管理	1. アカデミー実施に使用する物品、設備、情報などを適切に管理することができる 2. アカデミー実施に不足している物品や設備などの手配に協力することができる 3. 会場設備の利用、開錠・施錠、および共同鍵またはICカード等の管理を適切に行うことができる	1. アカデミー実施に使用する物品、設備、情報などを適切に管理することができる 2. アカデミー実施に不足している物品や設備などの手配に協力することができる 3. 会場設備の利用、開錠・施錠、および共同鍵またはICカード等の管理を適切に行うことができる
研修・研修者の利用・個人情報開示、クレーシオンの管理体制	1. アカデミー実施時の写真および映像については、事前にその撮影および利用が可能な範囲を確認し、撮影データおよび写出先などを適切に管理することができる	1. アカデミー実施時の写真および映像については、事前にその撮影および利用が可能な範囲を確認し、撮影データおよび写出先などを適切に管理することができる

© Sports Data Bank Group

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料、ほか）

4 後期ひのスポ！ひのカル！の活動状況報告

● ひのカル！料理（1型）の実施状況

開催概要	
指導者	日野社会教育センター
実施期間	1/14（日）～2/18（日）
申込期間	12/7（木）～12/21（木）
実施場所	日野市東部会館 2階料理実習室
参加対象	市立全中学校生徒 市立小学校6年生 ※初心者歓迎
参加費	6,800円 =800円（保険料）+3,000円（食材費）
時間	10:00～13:00
定員	16名
日程	①1/14（日）②1/21（日） ③1/28（日）④2/4（日） ⑤2/11（日）⑥2/18（日）
応募数	8名
参加数	8名

開催初日の様子

© Sports Data Bank Group

6 「連携II型」進捗状況について

● ひの社会教育センター主催教室の8プログラムが開始

プログラム名	概要	トランポリン	日曜ドラマ	白濁（はくえい）先生の楽道入門	学園リフレッシュ＆リラクゼーションヨガ	ピーコアントアドベンチャークラブ（鶴山）	中高生スポーツ	けん玉連綿
種別	定期開講	定期開講	定期開講	定期開講	定期開講	スポット	定期開講	定期開講
日時	毎週土曜日 17:00～18:30	毎週土曜または日曜日 ※詳細は前月22日の抽選会により決定 約120分	毎週日曜日 Aコース10:00～10:45 Bコース11:00～12:00	金曜日 18:00～19:30	月曜日（月1回） 15:30～16:30 水曜日 16:30～17:30/19:00～20:00 日曜日（月1回） 10:30～11:30	3月16日（土）	月2回 火曜日 19:10～20:30	毎週土曜日 14:00～16:00
場所	多摩平の森コミュニティホール TreeHALL (Tomonow PLAZA2 階) または、ひの社会教育センター	平山台健康・市民支援センター 体育館	ひの社会教育センター	ひの社会教育センター	ひの社会教育センター	今鶴山（八王子市）	高倉体育館	ひの社会教育センター
定員	年齢等で調整	前半・後半コース各16名	5名	15名程	各日5名程	12名程	15名程	なし
服装・持ち物	運動用具一式 ※所持しなくても参加可能	動きやすい服装、飲み物	スティック（お持ちください。方はご確認ください）	楽道用具一式/筆（販売もあります）/膠液（固って落ちるタイプは使用不可）/半紙（材料費に含まれています。八角・半切・三枚折は別途）	ヨガマット（貸出可）、タオル、動きやすい服装、飲み物	申し込み時に要確認	運動できる服装、履物、飲み物	けん玉（販売もあります）
費用合計（1～5名分）	初月：9,590円（税込） 2回目～：5,740円（税込）	初月：3,710円（税込） 2回目～：2,110円（税込）	初月：12,130円（税込） 2回目～：7,280円（税込）	初月：11,712円（税込） 2回目～：7,362円（税込）	初月：3,050円（税込） 2回目～：1,100円（税込）	12,100円（税込）	初月：8,820円（税込） 2回目～：4,970円（税込）	初月：8,820円（税込） 2回目～：4,970円（税込）

© Sports Data Bank Group

7 「連携II型」進捗状況について

● ひのスポ！ひのカル！奨学金の実証開始（経済産業省「未来の教室」事業）

「ひのスポ！ひのカル！奨学金」とは？
日野市教育委員会では、ひのスポ！ひのカル！連携プログラム（地域クラブ活動）に参加するための費用の一部を、給付型体験奨学金「ひのスポ！ひのカル！奨学金」として支給します。（令和5年度実証事業）

◆奨学金支給対象者
（1）令和5年度就学援助制度受給世帯
（2）令和5年度に日野市立中学校に通う生徒（2008年4月2日～2011年4月1日生まれの生徒）

◆奨学金が利用可能な対象プログラム
市の登録を受けた事業者が提供するスポーツ活動、文化活動等のひのスポ！ひのカル！連携プログラム（地域クラブ活動）
※ひの社会教育センター主催教室8プログラムが対象

◆支給限度額
1人あたり最大21,000円
※月あたり10,000円の奨学金利用限度額あり

◆利用期間
令和6年1月29日から令和6年3月31日まで

◆定員
23人

◆申込方法
日野市の電子申請を利用

◆申込締切
令和6年2月22日（木）まで

「ひのスポ！ひのカル！奨学金」運用システム

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン（東京都墨田区 / <https://www.cfc.or.jp>）のスタータークーポンシステムを利用

※ひのスポ！ひのカル！奨学金の詳細
<https://sites.google.com/ed-hino.jp/hinospo-hinocu/scholarship>

© Sports Data Bank Group

9 認証コード改訂版Ver.1.2について

● 前回ディスカッションの振り返り

初期運用版 Ver.1.2

Ver.1.0（第5回協議会）

- 「叩き台」としてのVer.1.0に対し、「削除」「修正」または「新規追加」という視点を軸に、チェックリストの詳細から包括的な運用まで、さまざまな意見を収集
- ディスカッショングループごとの意見を分類化し、Ver.1へ反映

Ver.1.1（第6回協議会）

- Ver.1.0に対して出された、大小さまざまな意見から、「新規追加」をメインにVer.1.1としてチェックリスト項目を更新
- Ver.1.1に対して、①「認証コードとしての重要性」②「実行の難易度」③「初期運用版Ver.1.2での優先度」などの項目ごとに、ディスカッションのうえ評価し、集約する

Ver.1.2（第7回協議会）

- 第6回協議会でのディスカッションと評価の結果から、「初期運用版Ver.1.2」として「残すべきもの」「再度の検討対象とするもの」に仕分け
- Ver.1.2を原本とし、代表の指導団体にて、具体的な「運営・管理マニュアル」のトライアル作成を行う

© Sports Data Bank Group

2. 実証内容と成果

参考資料 (活動の様子)



バレーボール



バドミントン



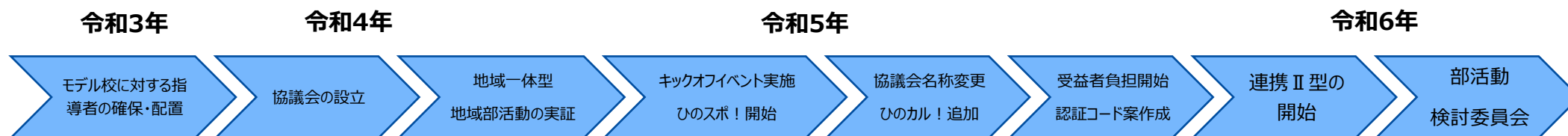
バスケットボール



ソフトテニス

2. 実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



<コニカミノルタによるアカデミー実施>

- ステークホルダー
 - プロジェクト立ち上げ当初より連携を行っている地域企業、コニカミノルタによる、地域部活動の運営モデル実証を三沢中学校をモデル校として開始
- 経過
 - 日野市内全中学校参加者を対象に募集33名で実証開始
- 実施にあたって生じた課題
 - 地域部活動の運営団体の設置
 - 安定的な財源獲得方法の確立
 - 指導人材の集約・制度設計
- 実施内容、工夫した点 等
 - 参加者の約30%が陸上部以外の運動部活動所属生徒、約10%が文化部所属の生徒。市内各中学校から多種多様な参加者が集まる

<協議会設立～キックオフイベント実施>

- 地域スポーツ連携協議会
 - 民間事業者、大学、スポーツ団体、行政、産学官民の関係団体が連携して行う、日野市の地域スポーツ環境の充実に関する検討。
- 経過
 - 「ひのスポ！キックオフイベント」を開催。
 - 市立小学校5・6年生児童、市立中学校生徒を対象に、市とゆかりのあるスポーツチーム・企業・大学が連携し、市民への周知を目的にイベント開催。参加者40名程度。
 - 令和5年度からひのスポ！（Ⅰ型）本格始動
- 実施にあたって生じた課題
 - イベント認知、開催周知
- 実施内容、工夫した点 等
 - 参加者は必ず2種類のスポーツを選択
 - うち1種目は、日頃行っていない種目を選択。新しいスポーツの選択肢、初心者歓迎

<費用徴収開始～認証コード案の作成>

- 費用徴収
 - 令和5年10月より、保険料実費代として、参加費800円（税込）の徴収を開始。
- 経過
 - 指導団体が持つべき参加基準、運営基準及び資格基準の定義を目的に「ひのスポ！ひのカル！認証コード」作成開始。4回の協議会内で「削除」「修正」「新規追加」「更新」を経て、Ver1.0→Ver1.1→Ver1.2へ改編。Ver1.2を原本とし、代表の指導団体にて、具体的な「運営・管理マニュアル」のトライアル作成を行う。
- 実施にあたって生じた課題
 - 参加人数の減少。「中学校3年生の不参加」「受益者負担」など要因分析が必要
- 実施内容、工夫した点 等
 - 費用徴収システムの導入
 - 保護者説明会動画の配信

<連携Ⅱ型の開始>

- ステークホルダー
 - 多種多様な選択肢の提供を目指し、地域に存在する既存の文化スポーツ団体・クラブ・民間事業者と連携。「ひのスポ！ひのカル！」の枠組みを「連携プログラム（Ⅱ型）」として、明星大学プログラミング講座を開始。
 - 部活動検討委員会を、2月上旬に初回実施。
- 経過
 - 明星大学に続き、「ひの社会教育センター」の主催教室である8プログラムが、「連携プログラム（Ⅱ型）」として募集開始

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
実施主体・統括団体			
実施主体の基準づくり	■	■	■
実施主体の認定手順	■	■	■
地域団体等との連携・協議	■	■	■
実施主体の認定		■	■
実施主体による運営		■	■
統括団体の設置		■	■
指導者			
指導者基準・条件の整理	■	■	■
研修・認証制度の整理	■	■	■
人材バンクの設置・募集		■	■
兼職兼業の整理		■	■
人材バンクの運用		■	■
参加費・財源			
企業版ふるさと納税		■	■
スポンサーメニュー整理・設計		■	■
企業協賛		■	■
低所得者世帯への支援・奨学金利用の促進	■	■	■
寄付・基金の設置		■	■
参加費収入・寄付受入		■	■
活動施設			
学校施設利用方法の見直し	■	■	■
公共施設・民間施設の利用	■	■	■
ICT導入		■	■
その他			
大会参加		■	■
移動（モビリティ）			■
オンライン指導		■	■

**【東京都狛江市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	東京都狛江市
担当課名	教育委員会教育部指導室
電話番号	03-3430-1111

1. 自治体の基本情報

基本情報

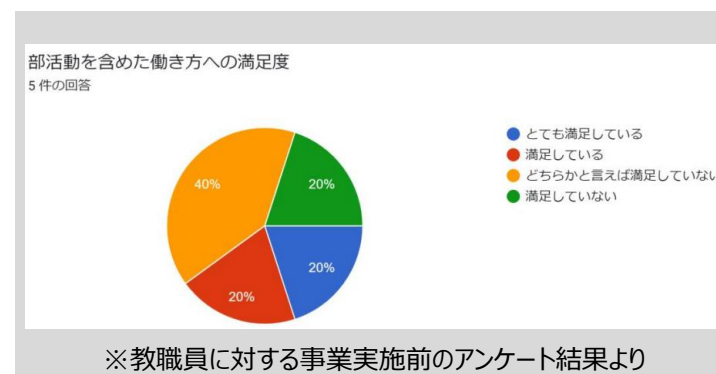
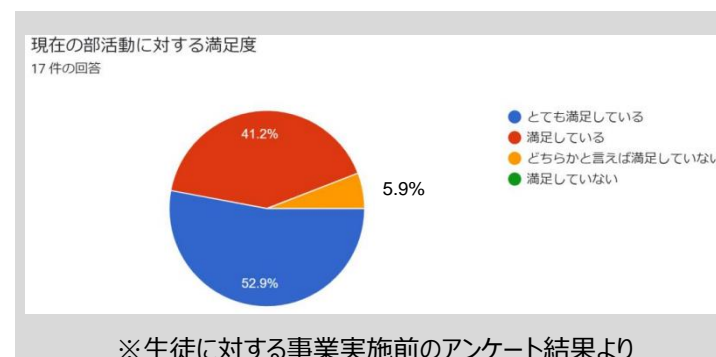
人口	82,221人（令和5年12月1日時点）	部活動数	26部活
公立中学校数	4校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	1,393人（令和5年5月1時点）	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市には4校の中学校があり、各校において部活動を存続するために複数顧問を配置するとともに、部活動指導員及び外部指導員を配置して可能な限り現状を維持できるように努力している。単独校では、競技人数が不足する部活動もあり、合同部活動を実施している種目がある。現在、技術指導も含めて、指導できる教員が在籍している。また、4校が徒歩圏内にあり、生徒が休日の移動における安全確保には大きな支障はない。指導者の確保として、部活動指導員及び外部指導員を配置している。部活動指導員については、予算面で全ての部活動への配置は困難であり、各校へ配置できる人数を提示して、配置する部活動を学校は決定している。なお、アンケート結果から部活動に対して生徒は9割以上が満足している一方で、働き方に関して満足している教員は4割に留まり、生徒と教員でのギャップがみられている。

今回は野球部とハンドボール部を実証事業の対象部活動に選び、民間企業に委託する形で学校部活動から切り離れた地域クラブとして試行的に運営した。また、令和4年度に設置した「狛江市立学校における部活動の地域移行に関する検討委員会（以下「検討委員会」という。）」において、実証事業での取組を随時共有しながら、令和7年度までの改革推進期間における検討課題等を「狛江市立学校の部活動地域連携推進事業計画」としてまとめたところである。

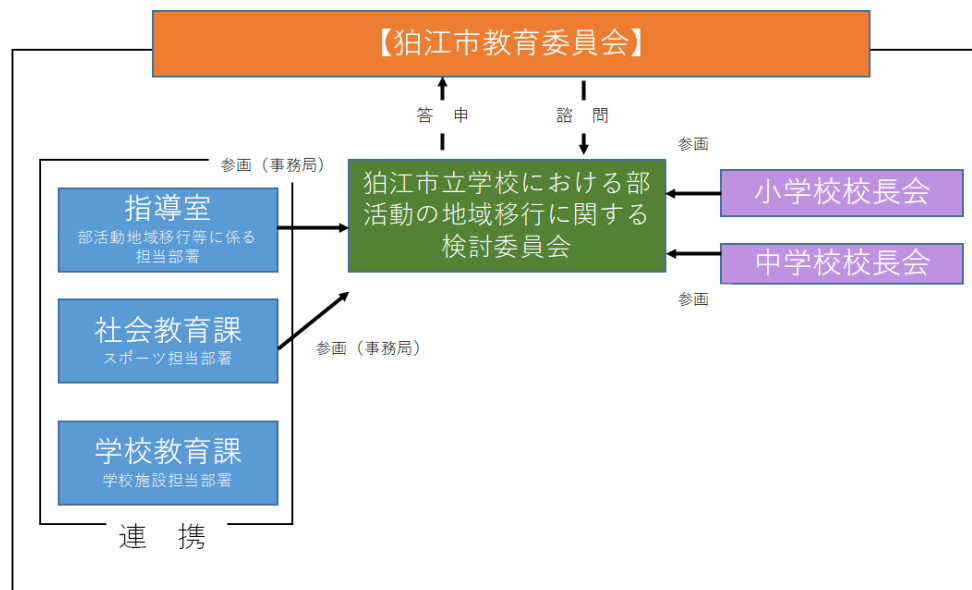
実証事業の取組や検討委員会での議論を経て、地域移行・地域連携の本格的な導入に向けては、地域クラブ活動としての担い手の発掘、公的負担と受益者負担（保護者負担）の適切なバランスの検討、学校によっては単独チームを組むことが出来る現状で、オール狛江で合同部活動を行うことの是非など、さまざまな課題が洗い出されたところである。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会

【指導室】

- ・部活動地域移行等に係る担当部署として、狛江市立学校における部活動の地域移行に関する検討委員会の運営
- ・実証事業に係る各種申請業務、契約・会計手続き など

【社会教育課】

- ・スポーツ担当部署として、体育協会や体育関係団体等との連絡
- ・狛江市立学校における部活動の地域移行に関する検討委員会への事務局としての参画 など

【学校教育課】

- 学校施設担当部署として、学校施設の利用等に関する受付 等

年間の事業スケジュール

4月に行った検討委員会で、野球部の合同部活動の試行実施案、実施要項について協議し、実施要項について教育委員会定例会の承認を受け制定した。この実施要項に基づき、野球部は実証事業の開始に先駆けて狛江第一中学校を拠点校とする4つの中学校の合同部活動としての取組を開始した。実証事業においては、5月中旬に採択の内示を受け、プロポーザル方式による委託業者の選定に向けて6月下旬に公告し、審査を経て8月3日にリーフラス株式会社と委託契約を締結した。この間に東京都とも4月26日付けで委託契約を行っている。委託契約業者決定後は、実施部活動の顧問やリーフラス株式会社の担当者を交えた打ち合わせを数回行い、指導開始時期等の大枠を決めた後、各学校のPTA会長との合意形成を経て、10月21日に野球部（4校の合同部活動）とハンドボール部（狛江第一中学校のみに存在する部活動）の保護者向け説明会を実施し、顧問を通じた部員生徒への説明を行った。

上述の行程を経て合意形成を完了し、野球部については11月19日から、ハンドボール部は10月28日から実証事業を開始した（いずれも公式戦終了後）。なお、ハンドボール部については他校の生徒も練習に参加できることとし、他の3校にもチラシを配って周知するなどしたが結果的に他校からは参加がなかった。実証事業は2月中旬まで実施し、野球部は延べ13回（練習・試合）、ハンドボール部は12回（練習）の活動を行った。なお、実証事業の前後には生徒・保護者・教員向けのアンケートを実施し、この結果はリーフラス株式会社の実績報告書や検討委員会による教育委員会への答申の基礎資料となった。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

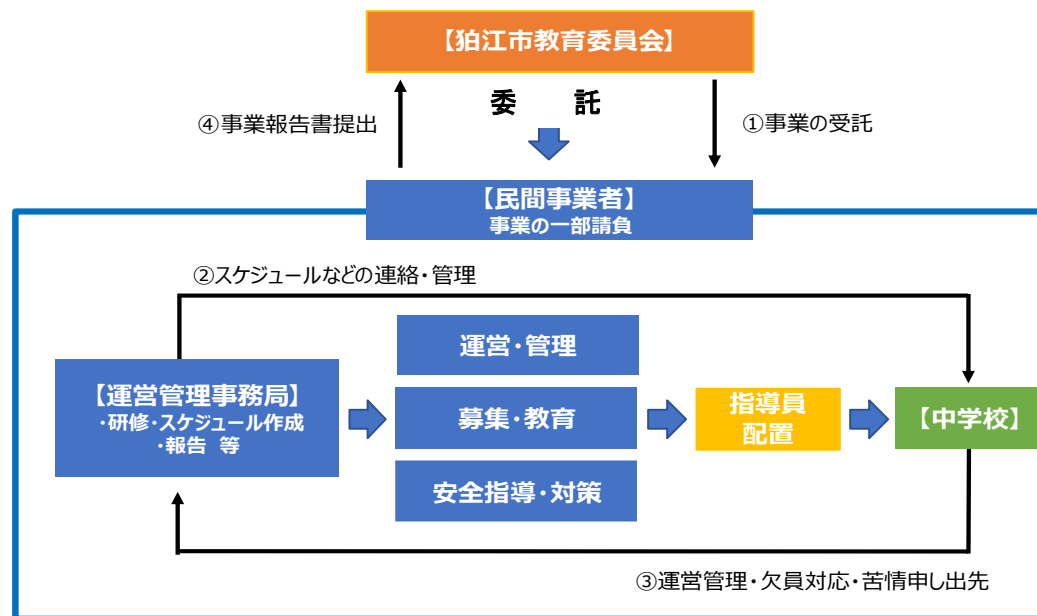
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	野球、ハンドボール
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	2部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	狛江市立狛江第一中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球、ハンドボール
運営主体名	リーフラス株式会社
運営類型	地域スポーツ団体等運営型（民間スポーツ事業者運営型）
1か月あたりの平均的な活動回数	種目ごとに月3回程度
指導者の主な属性	野球：教師の兼職兼業 ハンドボール：民間スポーツ事業者に属する指導者
活動場所	狛江市立狛江第一中学校校庭
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	野球：なし ハンドボール：なし
1人あたりの保険料	○賠償責任保険 3,020円（延べ生徒数1,240人） ○団体総合保障（傷害保険） 363,050円（延べ生徒数1,240人）

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・運営団体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- ・活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含む管理責任や賠償責任の主体を明確にし、共通理解を図る。

取組の成果

プロポーザル方式による業者選定にあたり、教育委員会、学校、委託事業者それぞれの役割や責任の所在を整理し、仕様書に明記することができた。このことにより契約した民間企業が、指導者の確保や指導者及び生徒に対する保険加入、中止等の場合の判断や連絡対応等に対応していただき、今後の地域連携・地域移行に向けて大きな混乱なく実施するための役割分担の礎ができた。実際、活動中に軽微な怪我や、雨天による練習の中止といった事象が発生したが、仕様に基づき混乱なく民間企業の主導で対応することができた。

特に工夫した事項

活動中の生徒の怪我に対する補償、連絡方法等については、特に保護者が心配するポイントであると考えた。学校部活動ではない地域クラブとしての活動には日本スポーツ振興センターの災害共済給付が適用されないため、同等の保険に加入することを契約の仕様書に明記した。また、保護者説明会等を通じて緊急時の対応や連絡方法を丁寧に周知することで、実際に事象が発生した際にも問題なく対応することができた。

今後の課題と対応方針

個人情報保護の観点から、窓口を民間企業の統括責任者に一本化してメール及び電話で対応したが、今回の実証事業における規模では円滑に進めることができた。しかし、今後を見据えた際に、規模が拡大していくと、やりとりが増加することが予想できるため、システムの活用を検討する必要性が生じる可能性がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

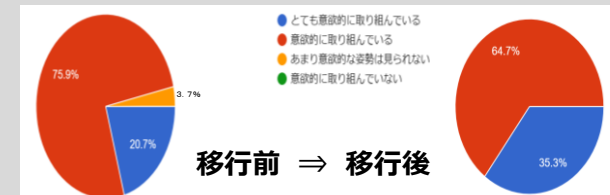
取組事項

・民間業者への委託による指導者の確保と資質向上のための研修の実施

取組の成果

生徒が意欲的に部活動に取り組んでいるかどうかのアンケートを事業開始前と事業実施後に行った。保護者46件の回答を得た任意アンケートの結果、意欲的に取り組んでいるとの回答が地域移行前96.6%だったところから移行後は100%に増加。とても意欲的に取り組んでいると回答した割合も20.7%から35.3%に増加した。生徒へのアンケート内容でも上達や楽しさを実感する声が出ており、来年度の継続を希望する内容が書かれていることから、総じて指導者の指導に対する満足が高かった。

保護者が見て子どもが意欲的に部活動に取り組んでいるかどうか

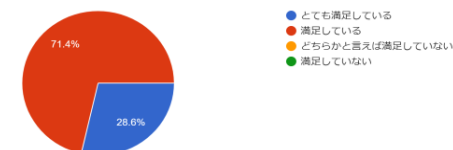


※保護者に対するアンケート結果より

特に工夫した事項

地域移行前の部活動環境を踏まえた指導者研修及び打ち出し方を工夫した。複数の指導者に対し、多感な時期にある中学生への指導を改めて基本から抑えて対応した。また、民間企業に対応を依頼する際に、急な変化によるハレーションが起きないように、民間企業の担当者が部活動顧問と多くのコミュニケーションを事前に取り、これまでの課題や今後の取組等を共有した上で事業を進めることができた。結果として、教職員からのアンケート結果でも、100%が満足していると回答した。

11月以降、休日の活動の一部を実証事業として、...」を通じた働き方への満足度を教えてください。7件の回答



※教職員に対する事業実施後のアンケート結果より

今後の課題と対応方針

地域指導者については、地域移行前後で人が変わるため生徒や保護者にとっても変化が分かりやすい結果となった。反対に、兼職兼業の対応で顧問がそのまま指導を継続した部活に関しては、指導者が変わらない先入観も手伝い、短期間での変化が生徒や保護者に伝わりにくかった。指導者としての意識や活動内容の準備と振り返り、言葉選び等変化は多く出ているため、より期間内で変化を感じやすい工夫も必要。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

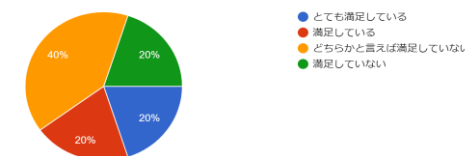
取組事項

・民間事業者と連携し、指導者の確保、指導者に対する研修内容の構築、および地域移行に対する課題事例の抽出を行う。

取組の成果

教員の働き方が1つの課題に挙げられる中で、事業開始前に【部活動を含めた働き方への満足度】についてアンケートを教職員に実施したところ、5件の回答から「とても満足している」が20%、「満足している」が20%の合計40%、「満足していない」に該当する回答が全体の60%を占めていたが、事業実施後に同様のアンケートを実施した結果、合計で100%の回答が「満足している」以上の結果となった。実証事業を実施した部活動においては、1つの課題が解決された結果となっている。

部活動を含めた働き方への満足度
5件の回答

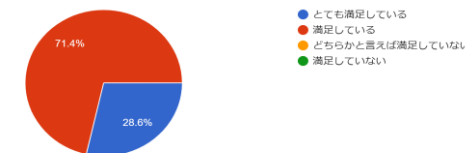


※教職員に対する事業開始前のアンケート結果より

特に工夫した事項

部活動に関わる教職員の環境には「部活動の顧問をやりたい先生」、「部活動をやりたくない先生」、「部活動をやりたいが現在は様々な理由からできない先生」がいる。そのため、課題の解決に向けて、まずはこれまでの部活動環境を一気に大きく変えていくのではなく、これまでのスタンスや取り組みに対し最大限のリスペクトを持って、多くのコミュニケーションを図りながら、事業を進めていくことをポイントに置いた。結果として、地域移行時に発生しがちなハレーションを引き起こすこともなく、100%の満足度を獲得できたと感じる。

11月以降、休日の活動の一部を実証事業として、...」を通じた働き方への満足度を教えてください。
7件の回答



※教職員に対する事業終了時のアンケート結果より

今後の課題と対応方針

今回は、休日の部活動についての実証事業を進めたため、顧問の先生方の物理的な休日確保には繋がったが、平日の活動との連携を図っていく上での業務は少なからず残っていた。また、対外試合を実施する際は、顧問を通じた連絡が必要なため、各種連盟との連携や練習試合の調整に加えて、雨天時等の実施判断連絡を民間事業者が引き継げる体制の構築が必要となる。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

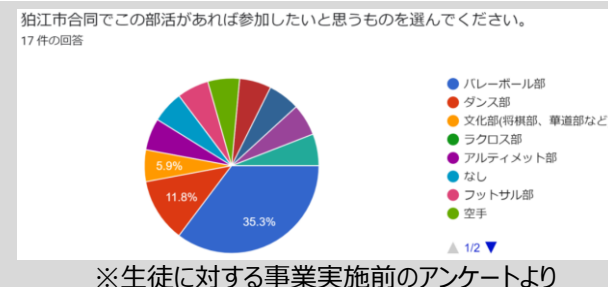
取組事項

・4つの中学校の一部部活について共同実施を検討する。

取組の成果

今回実証事業を行った2つの部活動のうち、野球部は市内全ての中学校に存在するものの、単独ではチームを組むことができなかった。そのため、合同部活動として実施できるよう要項を制定して実証事業を行った。

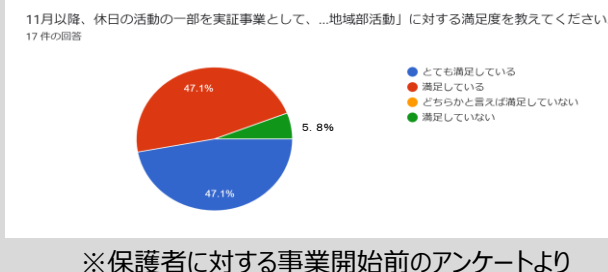
合同部活動は、単独でチームを組むことができる学校の生徒においては出場機会が減ることにつながり、必ずしもメリットばかりではないが、狛江市の野球部の場合はそれぞれの人数が少なく、合同部活動としたことで全ての中学校の野球部員が公式戦に出場することができ、生徒の活動を保証することができた。



特に工夫した事項

運営する上で、合同部活動であることを踏まえたスケジュール等の作成及び伝達を最も工夫した。部活動時の出欠席把握は勿論、テスト期間の違い等も含め、各家庭ごとに丁寧な対応を行った。以下は保護者からの回答一部を抜粋。

- ・怪我対応など、本当に早急に色々やってもらい、本当にありがたい
- ・活動の詳細などの連絡を迅速丁寧にしていただいた
- ・欠席連絡がしやすい。丁寧に返信いただけて安心感がある。活動時間が多少短くなり、他習い事や勉強の時間が少しもちやすくなった



今後の課題と対応方針

各中学校において、部員数が少ないという共通課題がある中での合同部活動は、非常に効果が出ている。反対に、1校にしかないハンドボール部では、年度途中で体験募集の案内を行ったが反応はなかった。今後は募集開始時期を前倒す等の対応が必要になると感じた。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

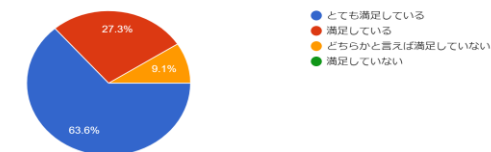
・生徒の志向や体力等の状況にあわせ、生徒が楽しみながらスポーツに親しむ機会の確保に取り組む。

取組の成果

地域部活動への満足度調査を生徒に対して行った。生徒11件の回答を得た任意アンケートの結果、約91%の生徒が満足と回答し、とても満足している生徒の割合は全体の約64%となった。（以下、実際の生徒の回答）

- ・普段の練習では出来ない実践に近い練習を教えて貰いすごくためになりました。
- ・接しやすく質問しやすいコーチの雰囲気と全体の雰囲気も良くなっていた。
- ・コーチの部活はハンドボールを楽しむ気持ちを忘れず、その中で試合に使える技術もたくさん教えて頂けてよかった。

11月以降、休日の活動の一部を実証事業として、...。「地域部活動」への満足度を教えてください。
11件の回答



※生徒に対する事業終了時のアンケート結果より

特に工夫した事項

委託先の民間企業がスポーツ教室で培った豊富なノウハウを保有していることから、事業開始に伴い、指導者に対する研修をしっかりと実施できた。また、毎回の活動時に民間企業の現場担当社員が同行することで、指導者が毎回の指導を見られる状況を作り出し、常に生徒の状態に合わせた最適なメニューや声掛けができるよう仕組みを整えた。

以下、実際の生徒の回答を抜粋。

- ・アドバイスが具体的で自分のためになった
- ・全体的に上手くなった。また、友情が深まった
- ・指導法がわかりやすかった
- ・いつもと違う事をするから楽しい
- ・練習や会話が楽しい
- ・より実践的な練習で試合のときに役立つ動きを確認できた

今後の課題と対応方針

今回の実証事業では、非常に満足度の高い結果となった。長期ビジョンの中で様々な部活動や指導者が関わる機会を作る上で、指導者によって指導に大きな差が生じることの無いよう、配置する前の指導者1人1人の経験やスキルに応じた研修体制が非常にポイントになる。同時に、活動同行時における、指導者へのフィードバックやディスカッションを通じて、質が向上する取り組みの継続も非常に重要となる。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

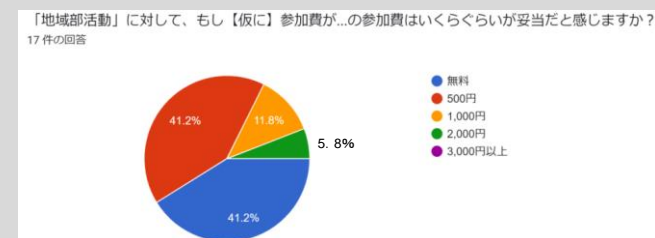
▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・保護者負担経費の調査（既存の部活動における活動経費との比較や調整・管理の在り方を含む）・検討を行う。

取組の成果

実証事業の実施後に実施した保護者向けアンケートで「もし【仮に】参加費が発生する場合、1回あたり(1日3時間)の参加費はいくらぐらいが妥当だと感じますか？」と尋ねたところ、負担が発生した場合の1回あたりの参加費については、4割程度が無料で6割程度が有料が妥当といった回答であった。また、有料と回答した方の多くは500円という回答であり、負担するとしても1月あたり2,000円程度までと考えている方が多いことが分かった。

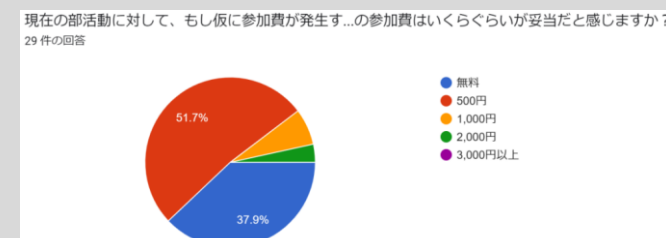


※保護者に対する実施後のアンケート結果より

特に工夫した事項

実証事業の実施前に実施した保護者向けアンケートでも、同じ設問で意見を聴取した。無料と有料の割合は実施前と実施後で大きく変動はなかったものの、実施後には有料の回答のうち1回あたり500円の割合が微減し、1,000円（1月あたり4,000円程度）の割合が微増した。

また、記述式のコメントでは有料化した場合、学校部活動ではなく外のクラブチームに行く子が多くなると思うが、クラブチームとは違う部活動ならではの価値観や心の成長を期待しているのでその点は変わらないで欲しいという貴重な意見もいただいた。



※保護者に対する実施前のアンケート結果より

今後の課題と対応方針

保護者の立場としての費用負担の規模額を推定することができたが、この結果も踏まえて公費負担と受益者負担（保護者負担）の適性なバランスを検討していく必要がある。このことについては、令和6年度も引き続き協議会の検討課題とする予定である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

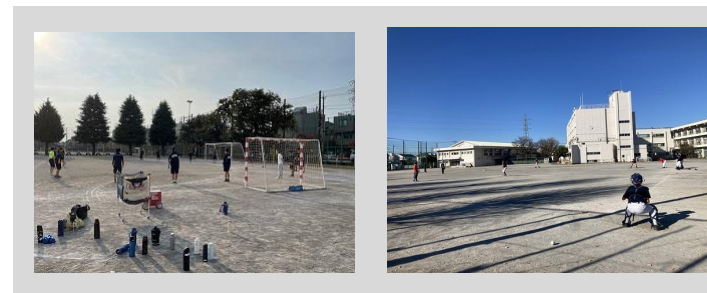
▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

・部活動を地域移行し、民間業者へ委託し運営した際の利用方法やルール（学校施設・設備・備品等の利用範囲や破損・紛失した場合の対応、施設の開閉手段・方法を含む）を検討して運営する。

取組の成果

今回の実証事業では、野球部・ハンドボール部いずれも狛江市立狛江第一中学校で実施した。実施にあたって必要となった用具（競技の消耗品を除く）は、用具が入っている体育倉庫の鍵、校舎の鍵、ラインカー用の石灰、AEDである。特にAEDは屋外ではなく校舎内に設置されていたため、民間事業者到校舎の鍵を渡す必要性が生じた。民間事業者が校舎の鍵の開閉を行うことにより、校舎に入る・いる教員との連絡手段も必要となるなど、当初は想定していなかった調整が生じたものの、地域移行・地域連携を考えるうえでのノウハウを一定程度蓄積することが出来た。



特に工夫した事項

取組の成果に記載したとおり、いざという時に校内のAEDを使用できる体制を組むため、校舎内に民間事業者が立ち入る必要性が生じた。学校は休日であっても、他部活動の顧問など教員の出入りがあるため、何らかの手段により在校中であることを民間事業者・教員の双方で知らせることができるようにならなければならなかった。今回については、屋外のキーボックスに「委託業者在校中」「教員在校中」などのマグネットをお互いに使用することによって、トラブルなく実施をすることができた。

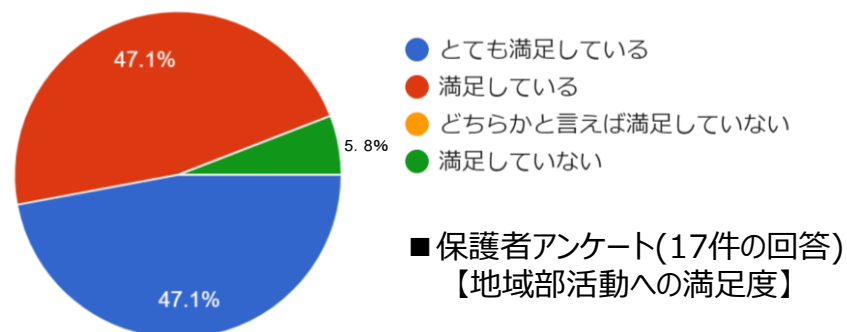
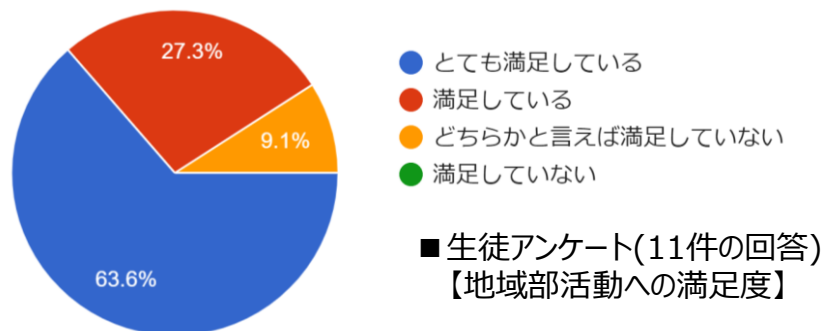
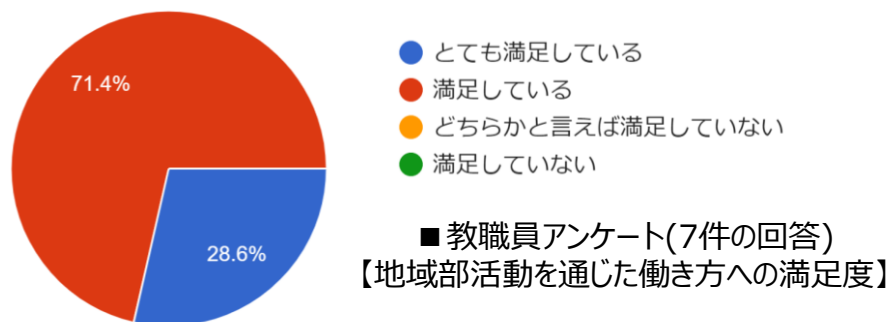
今後の課題と対応方針

地域移行・地域連携を本格的に実施する場合には、AEDの設置場所を含めて教員以外の指導者が使用可能な範囲・導線を検討し、改善の必要性が生じる可能性がある。

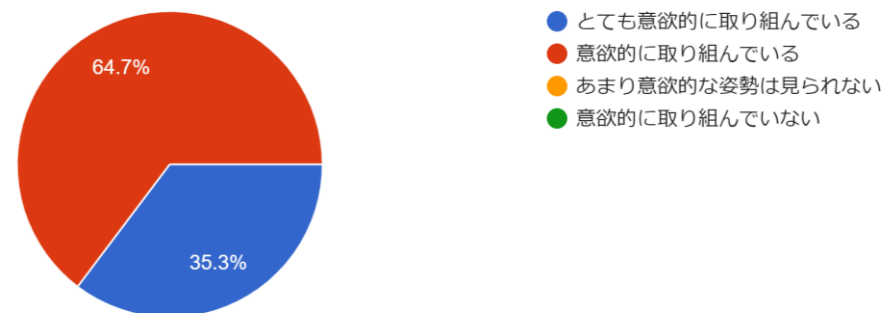
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

【令和5年度事業終了時アンケートの回答結果】



保護者様から見て、お子さまは「地域部活動」に意欲的に取り組んでいらっしゃいますか？
17件の回答



- 満足度は約97%の回答者が【満足している】と回答した
- 保護者が生徒の意欲的な参加を感じた割合は100%となった
- ハンドボール部は地域人材指導者の配置により、指導内容や雰囲気の変化が上達に繋がっていると感じた声が多かった
- 野球部は指導者が兼職兼業だったことで、運営面(怪我の対応、スケジュール伝達、返信対応の速さ)の変化を満足の理由に挙げる声が多かった
- 教職員・生徒・保護者の全てで、次年度の継続を期待する声が多く挙がった

【回答結果から得られた成果まとめ】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【野球部の活動の様子】



【野球部の活動の様子】



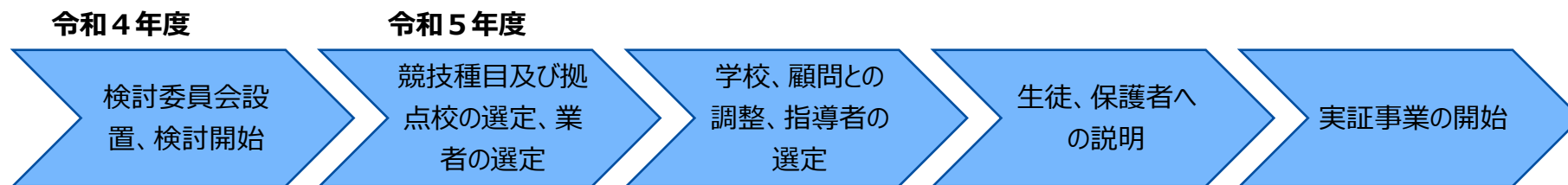
【ハンドボール部の活動の様子】



【ハンドボール部の活動の様子】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



《検討委員会設置、検討開始》

- ステークホルダー
検討委員会構成員
- 経過
- ①委員構成の内部検討
- ②関係者への説明・委員委嘱への合意形成
- ③例規整理
- ④検討スケジュールの検討、会議資料の作成
- ⑤会議開催
- 実施にあたって生じた課題
地域クラブ活動としての担い手の発掘の難しさ
- 実施内容、工夫した点 等
検討委員会には、校長や学校代表の教員、市内のスポーツ関係者、PTA連合会の代表や学校運営協議会の構成員等、地域移行・地域連携を考えるうえでのキーパーソンに参加していたが、今後も引き続き検討を続ける。

《協議種目及び拠点校の選定、業者の選定》

- ステークホルダー
検討委員会構成員、各校長
- 経過
- ①各部活動の活動実態の把握
- ②実施部活動を各校長と検討
- ③ " " を検討委員会で検討
- ④業者の選定（プロポーザル）
- 実施にあたって生じた課題
学校によっては単独チームを組むことができる現状で、合同部活動の実施の是非
- 実施内容、工夫した点 等
実施部活動の選定にあたっては、部員数が少なく単独ではチームが組めない中学校が多い野球部と、1校にしか存在せず指導者の確保も難しいハンドボール部を選定した。今後も上記課題など、地域以降・地域連携の在り方を検討する。

《学校、顧問との調整、指導者の選定》

- ステークホルダー
拠点校の校長、各校長、実施部活動の顧問、リーフラス株式会社
- 経過
- ①各校長に説明
- ②実施部活動の顧問に説明（兼職兼業の希望聴取含む）
- ③リーフラス株式会社による指導人材の確保（教員の兼職兼業手続含む）
- 実施にあたって生じた課題
平日と休日の活動のつながり（連動性）の確保
- 実施内容、工夫した点 等
指導者の選定にあたっては、部活動指導に熱心な教員もいることを踏まえ、教員に対して丁寧に希望を聴取し、希望する教員には兼職兼業を選択できるようにした。民間事業者の下では問題がなかったが、教員以外で指導者を確保する場合、研修機会も含む質の担保も課題となる。

《生徒、保護者への説明、地域クラブ活動の開始》

- ステークホルダー
拠点校の校長、各校長、実施部活動の顧問、生徒、保護者、リーフラス株式会社
- 経過
- ①各学校のPTA会長に説明
- ②保護者説明会の開催
- ③顧問から生徒に説明
- ④実証事業の開始
- 実施にあたって生じた課題
公的負担と受益者負担（保護者負担）の適切なバランスの検討
- 実施内容、工夫した点 等
保護者への説明にあたっては、教員への働き方改革ではなく、あくまでも生徒の運動機会を持続的に確保することを前面にし、主役は生徒であることを強調することで理解を得ることができた。今後は、公的負担と受益者負担の適切なバランス等を検討する必要がある。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

狛江市立学校の部活動地域連携推進事業計画

部活動の地域連携・地域移行に向けた動き

- 【国の動き】
- 令和4年6月 運動部活動の地域移行に関する検討会議からの提言
 - 令和4年8月 文化部活動の地域移行に関する検討会議からの提言
 - 令和4年12月 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインの策定
- 【東京都の動き】
- 令和5年3月 学校部活動及び新たな地域クラブ活動に関する総合的なガイドラインの策定
 - 令和5年3月 学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画の提示

少子化の中で、生徒がスポーツや文化芸術活動に親しむことができる機会を確保し、部活動の教育的な意義を継承し、新たな価値が創出されるよう、持続可能で多様な環境を整え、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識を共有して、望ましい成長を促進し、健全な育成を図ることに資する。

狛江市教育委員会の動き

- 令和4年12月 狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会の設置
- 令和5年1月 第1回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会開催
- 令和5年3月 第2回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会開催
- 令和5年4月 第3回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会開催
- 狛江市立中学校における合同部活動の開始（野球部）
- スポーツ庁「部活動の地域移行に向けた実証事業」実施委託地区に決定
- 令和5年6月 第4回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会開催
- 令和5年10月 第5回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会開催
- 令和5年11月 実証事業開始（野球部・ハンドボール部）
- 令和5年12月 第6回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会の開催
- 令和6年2月 第7回狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会の開催

検討の方向性

- 学校部活動の現状と課題について整理するとともに、持続可能な部活動の運営について協議する。
- 新たなスポーツ・文化芸術・科学等の環境整備や支援の在り方、実施するにあたっての方策を協議する。
- 休日の部活動における費用負担の在り方及び大会参加の方法、保護者への説明等について協議する。
- 部活動指導員等の指導者の確保及び質の向上について、学校の働き方改革の観点も踏まえ協議する。

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降	
フェーズ	改革推進期				
会議体	部活動の地域移行に関する検討委員会	狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会			
検討・協議内容	<ul style="list-style-type: none"> 合同部活動試行実施 ガイドラインの改訂 推進計画の策定 実証事業（国）の検証 費用負担の在り方 指導者の確保（部活動指導員等の配置等） 支援団体等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携の基本方針の検討 費用負担の在り方 指導者の確保（部活動指導員等の配置等） 支援団体等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針に基づいた地域連携の検討 費用負担の在り方 指導者の確保（部活動指導員等の配置等） 支援団体等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針に基づいた地域連携の検討 費用負担の在り方 指導者の確保（部活動指導員等の配置等） 支援団体等との連携 	
実施部活動	野球・ハンドボール	運動部活動 2 文化部活動 1	休日部活動地域連携の段階的推進	休日部活動地域連携の段階的推進	
地域連携の姿	休日拠点校（一中）	休日拠点校未定	拠点校方式での休日部活動	拠点校方式での休日部活動	
指導者	民間事業者の活用（教員の兼業等）	民間事業者の活用（教員の兼業） 部活動指導員の活用 地域の担い手の発掘	民間事業者の活用（教員の兼業） 部活動指導員の活用 地域の担い手の発掘	民間事業者の活用（教員の兼業） 部活動指導員の活用 地域の担い手の発掘	
【費用負担等の現状と課題】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者負担は、各校単位で徴収している部費及び個人で使用するユニホーム等の用具費となっている。大会参加時は、部費から抽出しているが市補助金を活用している。国の実証事業や東京都の補助金が見込まれない場合は、休日の合同部活動に関する費用負担の在り方が今後の課題となる。 生徒のケガ等については、学校管理下の場合は日本スポーツ振興センターの保険が適用される。国の実証事業は、委託事業者の保険が適用される。地域連携の場合は、その主体によって部活動の保険適用の在り方が変わってくる。 				

目指す姿



- 【生徒】
- 在籍する学校にない部活動でも参加できる。
 - 他校との交流により、学校生活への向上心が高まる。
 - 技術、技能の向上が図られ、意欲的に活動している。
- 【学校】
- 安全に活動できる環境を整えている。
 - 部活動への関わりについて、保護者・地域の理解を得ている。
 - スポーツ及び文化芸術・科学活動の拠点となっている。
- 【保護者・地域等】
- 部活動を支援し、学校と連携して生徒の成長を見守っている。
 - 部活動に積極的に関与し、生徒の活動を保障している。